

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-206551

(P2005-206551A)

(43) 公開日 平成17年8月4日(2005.8.4)

(51) Int. Cl. <sup>7</sup>	F I	テーマコード (参考)
<b>C07C 15/62</b>	C07C 15/62	3K007
<b>C09K 11/06</b>	C09K 11/06 610	4H006
<b>H05B 33/14</b>	C09K 11/06 620	
<b>H05B 33/22</b>	C09K 11/06 645	
	H05B 33/14 B	
審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 68 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2004-16538 (P2004-16538)	(71) 出願人	000005887 三井化学株式会社 東京都港区東新橋一丁目5番2号
(22) 出願日	平成16年1月26日 (2004.1.26)	(72) 発明者	井上 浩二 千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内
		(72) 発明者	青木 要治 千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内
		(72) 発明者	加賀山 陽史 千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内
		(72) 発明者	玉谷 弘明 千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内
		最終頁に続く	

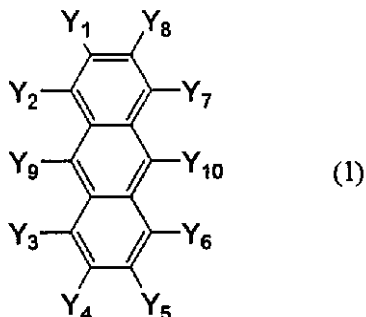
(54) 【発明の名称】アントラセン化合物、および該アントラセン化合物を含有する有機電界発光素子

(57) 【要約】

【課題】有機電界発光素子の発光材料として、好適に使用することができる新規なアントラセン化合物を提供すること。

【解決手段】式(1)で表されるアントラセン化合物。

【化1】



〔式(1)中、Y<sub>1</sub> ~ Y<sub>10</sub>は、それぞれ独立に水素原子またはハロゲン原子等を表し、Y<sub>1</sub> ~ Y<sub>10</sub>の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよく、Y<sub>1</sub> ~ Y<sub>10</sub>のうち少なくとも一つは式(2)で表される基である〕

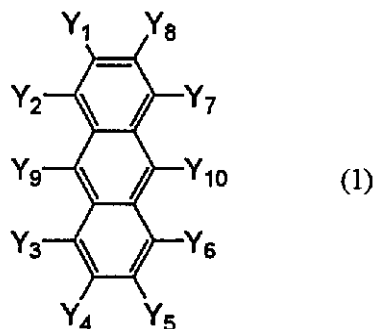
【化2】

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

式(1)で表されるアントラセン化合物。

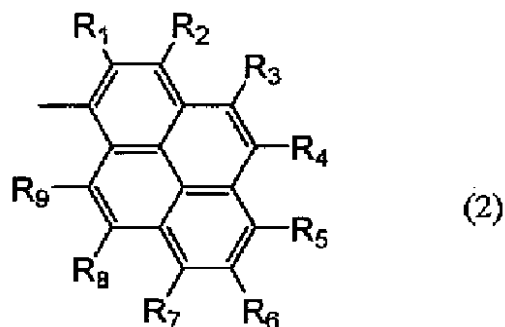
## 【化 1】



10

〔式(1)中、 $Y_1 \sim Y_{10}$ は、それぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $Y_1 \sim Y_{10}$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよく、 $Y_1 \sim Y_{10}$ のうち少なくとも一つは式(2)で表される基である〕

## 【化 2】



20

〔式(2)中、 $R_1 \sim R_9$ はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $R_1 \sim R_9$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。〕

30

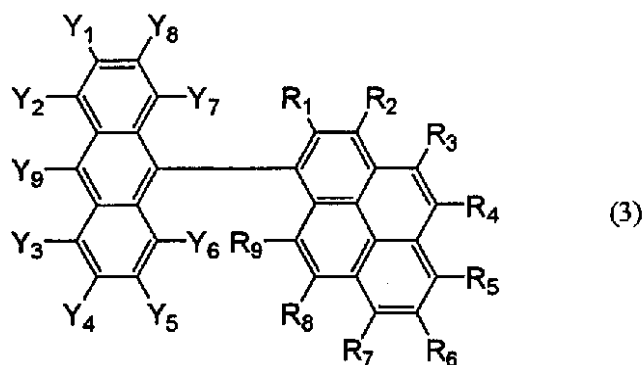
## 【請求項 2】

式(1)において、 $Y_9$ および $Y_{10}$ の少なくとも一方が式(2)で表される基である請求項1記載のアントラセン化合物。

## 【請求項 3】

下記式(3)で表される請求項1記載のアントラセン化合物。

## 【化 3】



40

〔式(3)中、 $Y_1 \sim Y_9$ は、式(1)と同様の原子または基を表し、 $Y_1 \sim Y_9$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。 $R_1 \sim R_9$ は式(2)と同

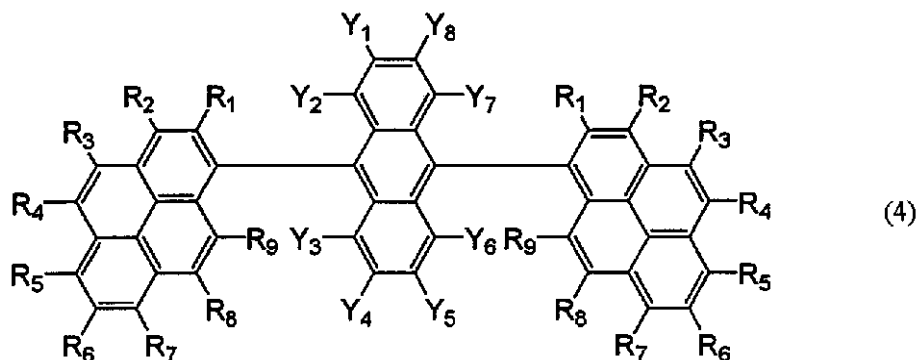
50

様の原子または基を表し、 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。]

【請求項 4】

下記式 (4) で表される請求項 1 記載のアントラセン化合物。

【化 4】



10

[式 (4) 中、 $Y_1 \sim Y_8$  は、式 (1) と同様の原子または基を表し、 $Y_1 \sim Y_8$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。 $R_1 \sim R_9$  は式 (2) と同様の原子または基を表し、 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。]

【請求項 5】

一对の電極間に、式 (1) で表されるアントラセン化合物を少なくとも 1 種含有する層を少なくとも一層挟持してなる有機電界発光素子。

20

【請求項 6】

式 (1) で表されるアントラセン化合物を含有する層が、発光層である請求項 5 記載の有機電界発光素子。

【請求項 7】

式 (1) で表されるアントラセン化合物を含有する層が、正孔注入輸送層である請求項 5 記載の有機電界発光素子。

【請求項 8】

一对の電極間に、さらに、正孔注入輸送層を有する請求項 5 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の有機電界発光素子。

30

【請求項 9】

一对の電極間に、さらに、電子注入輸送層を有する請求項 5 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の有機電界発光素子。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、新規なアントラセン化合物および該アントラセン化合物を含有してなる有機電界発光素子に関する。

【背景技術】

40

【0002】

従来、無機電界発光素子は、例えば、バックライトなどのパネル型光源として使用されてきたが、該発光素子を駆動させるには、交流の高電圧が必要である。最近になり、発光材料に有機材料を用いた有機電界発光素子（有機エレクトロルミネッセンス素子：有機 EL 素子）が開発された〔例えば、非特許文献 1 参照〕。

有機電界発光素子は蛍光性有機化合物を含む薄膜を、陽極と陰極間に挟持した構造を有し、該薄膜に電子および正孔（ホール）を注入して、再結合させることにより励起子（エキシトン）を生成させ、この励起子が失活する際に放出される光を利用して発光する素子である。有機電界発光素子は、数 V ~ 数十 V 程度の直流の低電圧で発光が可能であり、また、蛍光性有機化合物の種類を選択することにより、種々の色（例えば、赤色、青色、緑

50

色)の発光が可能である。このような特徴を有する有機電界発光素子は種々の発光素子、表示素子等への応用が期待されている。しかしながら、一般に、発光輝度が低く、実用上充分ではない。

発光輝度を向上させる方法として、発光層に、ホスト材料としてトリス(8-キノリノラート)アルミニウム等を使用し、ゲスト化合物(ドーパント)としてクマリン誘導体、ピラン誘導体を使用した有機電界発光素子が提案されている[非特許文献2参照]。また、発光層の材料として、アントラセン誘導体を用いた有機電界発光素子が提案されている(例えば、特許文献1、特許文献2参照)。さらには、発光層のゲスト化合物として、アントラセン誘導体を使用した有機電界発光素子も提案されている(例えば、特許文献3、特許文献4参照)。

10

しかしながら、これらの発光素子も十分な発光輝度、発光寿命を有しているとは言いがたく、現在では、さらなる高輝度化、長寿命化が望まれている。

アントラセン誘導体を正孔輸送層として用いた有機電界発光素子も提案されている(例えば、特許文献5参照)。

しかしながら、この発光素子は十分な発光効率を有しているとは言いがたく、さらなる高効率化が望まれている。

【非特許文献1】Appl.Phys.lett.,51,913(1987)

【非特許文献2】J.Appl.Phys.,65,3610(1989)

【特許文献1】特開平8-12600号公報

【特許文献2】特開平11-111458号公報

20

【特許文献3】特開平10-36832号公報

【特許文献4】特開平10-294179号公報

【特許文献5】米国特許第6465115号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

本発明の課題は、新規なアントラセン化合物を提供することである。さらに詳しくは、例えば、有機電界発光素子の発光材料として、好適に使用することができるアントラセン化合物を提供することである。本発明の課題は、さらに該化合物を用いた有機電界発光素子を提供することである。

30

【課題を解決するための手段】

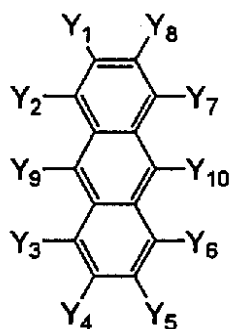
【0004】

本発明者らは、上記課題を解決するために、種々のアントラセン化合物、特に、有機電界発光素子の発光材料に好適に使用できるアントラセン化合物に関して鋭意検討を行った結果、本発明を完成させるに至った。すなわち、本発明は、

<1>:式(1)で表されるアントラセン化合物に関するものであり、

【0005】

【化5】



(1)

40

【0006】

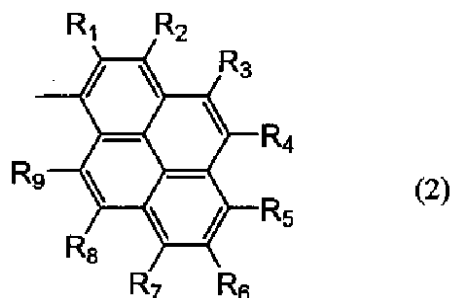
〔式(1)中、Y<sub>1</sub>~Y<sub>10</sub>は、それぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、ア

50

ラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $Y_1 \sim Y_{10}$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよく、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のうち少なくとも一つは式(2)で表される基である]

【0007】

【化6】



10

【0008】

[式(2)中、 $R_1 \sim R_9$  はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。]

好ましい態様として、

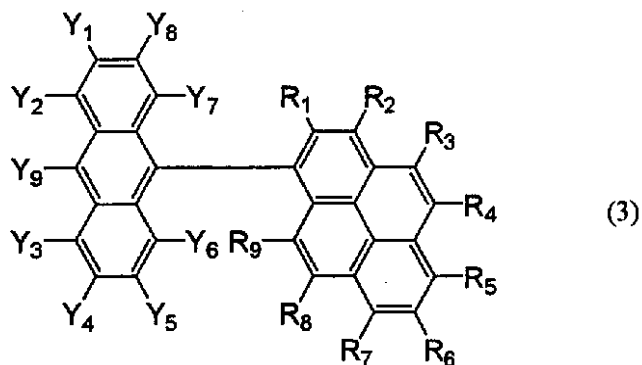
<2>: 式(1)において、 $Y_9$  および  $Y_{10}$  の少なくとも一方が式(2)で表される基である<1>記載のアントラセン化合物、

20

<3>: 下記式(3)で表される<1>記載のアントラセン化合物、

【0009】

【化7】



30

【0010】

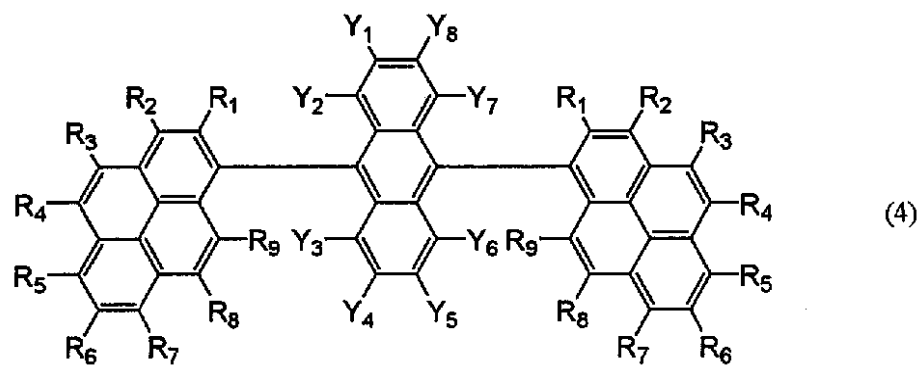
[式(3)中、 $Y_1 \sim Y_9$  は、式(1)と同様の原子または基を表し、 $Y_1 \sim Y_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。 $R_1 \sim R_9$  は式(2)と同様の原子または基を表し、 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。]

<4>: 下記式(4)で表される<1>記載のアントラセン化合物、

40

【0011】

## 【化 8】



10

## 【 0 0 1 2 】

〔式(4)中、 $Y_1 \sim Y_8$ は、式(1)と同様の原子または基を表し、 $Y_1 \sim Y_8$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。 $R_1 \sim R_9$ は式(2)と同様の原子または基を表し、 $R_1 \sim R_9$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。〕

に関するものである。

また、本願発明は、

<5>：一対の電極間に、式(1)で表されるアントラセン化合物を少なくとも1種含有する層を少なくとも一層挟持してなる有機電界発光素子に関するものであり、

20

好ましい態様として、

<6>：式(1)で表されるアントラセン化合物を含有する層が、発光層である<5>記載の有機電界発光素子、

<7>：式(1)で表されるアントラセン化合物を含有する層が、正孔注入輸送層である<5>記載の有機電界発光素子、

<8>：一対の電極間に、さらに、正孔注入輸送層を有する<5>~<7>のいずれか1つに記載の有機電界発光素子、

<9>：一対の電極間に、さらに、電子注入輸送層を有する<5>~<8>のいずれか1つに記載の有機電界発光素子、

に関するものである。

30

## 【発明の効果】

## 【 0 0 1 3 】

本発明により、新規なアントラセン化合物、および発光寿命が長く、耐久性に優れた有機電界発光素子を提供することが可能になる。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【 0 0 1 4 】

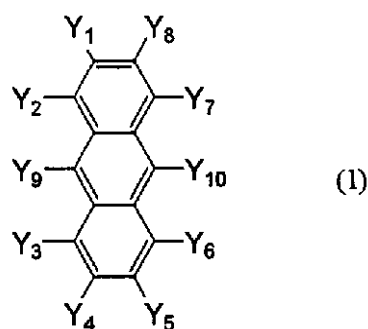
以下、本発明に関し詳細に説明する。

## 【 0 0 1 5 】

本発明のアントラセン化合物は式(1)で表される化合物である。

## 【 0 0 1 6 】

## 【化 9】



40

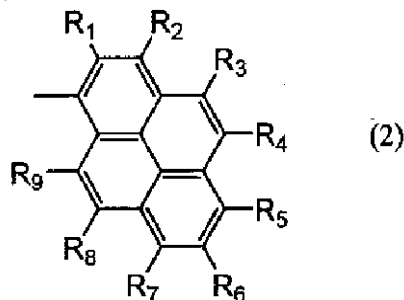
50

## 【0017】

〔式(1)中、 $Y_1 \sim Y_{10}$ は、それぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $Y_1 \sim Y_{10}$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよく、 $Y_1 \sim Y_{10}$ のうち少なくとも一つは式(2)で表される基である〕

## 【0018】

## 【化10】



10

## 【0019】

〔式(2)中、 $R_1 \sim R_9$ はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $R_1 \sim R_9$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。〕

20

本発明のアントラセン化合物の好ましい態様として、式(1)の $Y_9$ および $Y_{10}$ の少なくとも一方が式(2)で表される基である化合物が挙げられる。より好ましい具体的態様として、前記式(3)の化合物、さらに好ましい具体的態様として、前記式(4)の化合物を挙げることができる。

## 【0020】

式(1)、(3)、(4)で表されるアントラセン化合物において、 $Y_1 \sim Y_{10}$ はそれぞれ独立に水素原子またはハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表す。この場合のアミノ基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基、アリールオキシ基には、それぞれ、置換または未置換のアミノ基、直鎖、分岐または環状のアルキルカルボニル基、直鎖、分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状アルコキシ基、置換または未置換のアラルキル基、置換または未置換のアラルキルオキシ基、置換または未置換のアリール基、置換または未置換のアリールオキシ基が包含される(以下、同じ)。 $Y_1 \sim Y_{10}$ の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。

30

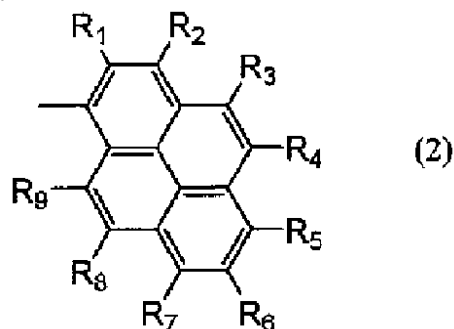
$Y_1 \sim Y_{10}$ は、好ましくは、水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、炭素数1~10のアルキルカルボニル基、炭素数1~10のアルキル基、炭素数1~10のアルコキシ基、炭素数7~20のアラルキル基、炭素数7~20のアラルキルオキシ基、炭素数4~20のアリール基または炭素数4~20のアリールオキシ基を表し、より好ましくは、水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、炭素数1~8のアルキルカルボニル基、炭素数1~8のアルキル基、炭素数1~8のアルコキシ基、炭素数7~16のアラルキル基、炭素数7~16のアラルキルオキシ基、炭素数4~16のアリール基または炭素数4~16のアリールオキシ基を表す。ここで、アリール基は、炭素環式芳香族基および複素環式芳香族を表す。

40

本発明の式(1)で表わされるアントラセン化合物において、 $Y_1 \sim Y_{10}$ のうち少なくとも一つは式(2)で表わされる基である。

## 【0021】

## 【化 1 1】



10

## 【0022】

〔式(2)中、 $R_1 \sim R_9$  はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラールキル基、アラールキルオキシ基、アリール基またはアリールオキシ基を表し、 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。〕

## 【0023】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のハロゲン原子の具体例としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子等を挙げることができる。

## 【0024】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアミノ基の具体例としては、未置換アミノ基、N - メチルアミノ基、N - エチルアミノ基、N - n - プロピルアミノ基、N - イソプロピルアミノ基、N - n - ブチルアミノ基、N - イソブチルアミノ基、N - sec-ブチルアミノ基、N - tert-ブチルアミノ基、N - n - ペンチルアミノ基、N - シクロペンチルアミノ基、N - n - ヘキシルアミノ基、N - シクロヘキシルアミノ基、N - ベンジルアミノ基、N - フェネチルアミノ基、N - フェニルアミノ基、N - (1 - ナフチル)アミノ基、N - (2 - ナフチル)アミノ基、N - (4 - フェニルフェニル)アミノ基、N - (3 - フェニルフェニル)アミノ基、N - (2 - フェニルフェニル)アミノ基、N - (4 - メチルフェニル)アミノ基、N - (2 - メチルフェニル)アミノ基、N - (2 - アントラニル)アミノ基、N - (9 - アントラニル)アミノ基、N, N - ジメチルアミノ基、N, N - ジエチルアミノ基、N, N - ジ - n - プロピルアミノ基、N, N - ジ - イソプロピルアミノ基、N, N - ジ - n - ブチルアミノ基、N, N - ジ - イソブチルアミノ基、N, N - ジ - sec-ブチルアミノ基、N, N - ジ - n - ペンチルアミノ基、N, N - ジシクロペンチルアミノ基、N, N - ジシクロヘキシルアミノ基、N, N - ジベンジルアミノ基、N, N - ジフェネチルアミノ基、N - メチル - N - エチルアミノ基、N - メチル - N - n - プロピルアミノ基、N - メチル - N - イソプロピルアミノ基、N - メチル - N - n - ブチルアミノ基、N - メチル - N - tert-ブチルアミノ基、N - メチル - N - シクロペンチルアミノ基、N - メチル - N - シクロヘキシルアミノ基、N - メチル - N - ベンジルアミノ基、N - メチル - N - フェネチルアミノ基、N - エチル - N - tert-ブチルアミノ基、N - エチル - N - シクロヘキシルアミノ基、N - エチル - N - ベンジルアミノ基、N - イソプロピル - N - シクロペンチルアミノ基、N - イソプロピル - N - シクロヘキシルアミノ基、N - イソプロピル - N - ベンジルアミノ基、N - tert-ブチル - N - シクロヘキシルアミノ基、N - tert-ブチル - N - ベンジルアミノ基、N - シクロペンチル - N - ベンジルアミノ基、N - シクロヘキシル - N - ベンジルアミノ基、N, N - ジフェニルアミノ基、N, N - ジ(1 - ナフチル)アミノ基、N, N - ジ(2 - ナフチル)アミノ基、N, N - ジ(4 - フェニルフェニル)アミノ基、N, N - (4 - メチルフェニル)アミノ基、N, N - ジ(3 - メチルフェニル)アミノ基、N - フェニル - N - (1 - ナフチル)アミノ基、N - フェニル - N - (2 - ナフチル)アミノ基、N - フェニル - N - (4 - フェニルフェニル)アミノ基、N - フェニル - N - (4 - メチルフェニル)アミノ基、N - (1 - ナフチル) - N - (4 - フェニルフェニル)アミノ基などを挙げることができる。

20

30

40

## 【0025】

50

$Y_1 \sim Y_{10}$  のエステル基の具体例としては、メトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、 $n$ -プロピルオキシカルボニル基、イソプロピルオキシカルボニル基、 $n$ -ブチルオキシカルボニル基、イソブチルオキシカルボニル基、*tert*-ブチルオキシカルボニル基、 $n$ -ペンチルオキシカルボニル基、シクロペンチルオキシカルボニル基、シクロヘキシルオキシカルボニル基、ベンジルオキシカルボニル基、フェニルオキシカルボニル基、1-ナフチルオキシカルボニル基、2-ナフチルオキシカルボニル基、アセチルオキシ基、エチルカルボニルオキシ基、 $n$ -プロピルカルボニルオキシ基、 $n$ -ブチルカルボニルオキシ基、*tert*-ブチルカルボニルオキシ基、シクロヘキシルカルボニルオキシ基、ベンジルカルボニルオキシ基、フェニルカルボニルオキシ基、1-ナフチルカルボニルオキシ基、2-ナフチルカルボニルオキシ基などを挙げる事ができる。

10

## 【0026】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアルキルカルボニル基の具体例としては、メチルカルボニル基、エチルカルボニル基、 $n$ -プロピルカルボニル基、イソプロピルカルボニル基、 $n$ -ブチルカルボニル基、*tert*-ブチルカルボニル基、 $n$ -ペンチルカルボニル基、シクロペンチルカルボニル基、 $n$ -ヘキシルカルボニル基、シクロヘキシルカルボニル基、 $n$ -ヘプチルカルボニル基、 $n$ -オクチルカルボニル基、 $n$ -ノニルカルボニル基、 $n$ -デシルカルボニル基などを挙げる事ができる。

## 【0027】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアルキル基の具体例としては、メチル基、エチル基、 $n$ -プロピル基、イソプロピル基、 $n$ -ブチル基、イソブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、 $n$ -ペンチル基、イソペンチル基、ネオペンチル基、*tert*-ペンチル基、 $n$ -ヘキシル基、1-メチルペンチル基、4-メチル-2-ペンチル基、2-エチルブチル基、 $n$ -ヘプチル基、1-メチルヘキシル基、 $n$ -オクチル基、1-メチルヘプチル基、2-エチルヘキシル基、2-プロピルペンチル基、 $n$ -ノニル基、2,2-ジメチルヘプチル基、2,6-ジメチル-4-ヘプチル基、3,5,5-トリメチルヘキシル基、 $n$ -デシル基、1-エチルオクチル基、 $n$ -ウンデシル基、1-メチルデシル基、 $n$ -ドデシル基、 $n$ -トリデシル基、1-ヘキシルヘプチル基、 $n$ -テトラデシル基、 $n$ -ペンタデシル基、1-ヘプチルオクチル基、 $n$ -ヘキサデシル基、 $n$ -ヘプタデシル基、1-オクチルノニル基、 $n$ -オクタデシル基、1-ノニルデシル基、1-デシルウンデシル基、 $n$ -エイコシル基、 $n$ -ドコシル基、 $n$ -テトラコシル基、シクロヘキシルメチル基、(1-イソプロピルシクロヘキシル)メチル基、2-シクロヘキシルエチル基、ボルネル基、イソボルネル基、1-ノルボルニル基、2-ノルボルナンメチル基、1-ビスシクロ[2.2.2]オクチル基、1-アダマンチル基、3-ノルアダマンチル基、1-アダマンチルメチル基、シクロブチル基、シクロペンチル基、1-メチルシクロペンチル基、シクロヘキシル基、4-メチルシクロヘキシル基、3-メチルシクロヘキシル基、2-メチルシクロヘキシル基、2,3-ジメチルシクロヘキシル基、2,5-ジメチルシクロヘキシル基、2,6-ジメチルシクロヘキシル基、3,4-ジメチルシクロヘキシル基、3,5-ジメチルシクロヘキシル基、2,4,6-トリメチルシクロヘキシル基、3,3,5-トリメチルシクロヘキシル基、2,6-ジイソプロピルシクロヘキシル基、4-*tert*-ブチルシクロヘキシル基、3-*tert*-ブチルシクロヘキシル基、4-フェニルシクロヘキシル基、2-フェニルシクロヘキシル基、シクロヘプチル基、シクロオクチル基、シクロデシル基、シクロドデシル基、シクロテトラデシル基、

20

30

40

## 【0028】

メトキシメチル基、エトキシメチル基、 $n$ -ブトキシメチル基、 $n$ -ヘキシルオキシメチル基、(2-エチルブチルオキシ)メチル基、 $n$ -オクチルオキシメチル基、 $n$ -デシルオキシメチル基、2-メトキシエチル基、2-エトキシエチル基、2- $n$ -プロピルオキシエチル基、2-イソプロピルオキシエチル基、2- $n$ -ブチルオキシエチル基、2- $n$ -ペンチルオキシエチル基、2- $n$ -ヘキシルオキシエチル基、2-(2-エチルブチルオキシ)エチル基、2- $n$ -ヘプチルオキシエチル基、2- $n$ -オクチルオキシエチル基、2-(2-エチルヘキシルオキシ)エチル基、2- $n$ -デシルオキシエチル基、2- $n$

50

- ドデシルオキシエチル基、2 - n - テトラデシルオキシエチル基、2 - シクロヘキシルオキシエチル基、2 - メトキシプロピル基、3 - メトキシプロピル基、3 - エトキシプロピル基、3 - n - プロピルオキシプロピル基、3 - イソプロピルオキシプロピル基、3 - (n - ブチルオキシ)プロピル基、3 - (n - ペンチルオキシ)プロピル基、3 - (n - ヘキシルオキシ)プロピル基、3 - (2 - エチルブチルオキシ)プロピル基、3 - (n - オクチルオキシ)プロピル基、3 - (2 - エチルヘキシルオキシ)プロピル基、3 - (n - デシルオキシ)プロピル基、3 - (n - ドデシルオキシ)プロピル基、3 - (n - テトラデシルオキシ)プロピル基、3 - シクロヘキシルオキシプロピル基、4 - メトキシブチル基、4 - エトキシブチル基、4 - n - プロピルオキシブチル基、4 - イソプロピルオキシブチル基、4 - n - ブチルオキシブチル基、4 - n - ヘキシルオキシブチル基、4 - n - オクチルオキシブチル基、4 - n - デシルオキシブチル基、4 - n - ドデシルオキシブチル基、5 - メトキシペンチル基、5 - エトキシペンチル基、5 - n - プロピルオキシペンチル基、6 - エトキシヘキシル基、6 - イソプロピルオキシヘキシル基、6 - n - ブチルオキシヘキシル基、6 - n - ヘキシルオキシヘキシル基、6 - n - デシルオキシヘキシル基、4 - メトキシシクロヘキシル基、7 - エトキシヘプチル基、7 - イソプロピルオキシヘプチル基、8 - メトキシオクチル基、10 - メトキシデシル基、10 - n - ブチルオキシデシル基、12 - エトキシドデシル基、12 - イソプロピルオキシドデシル基、テトラヒドロフルフリル基、

10

## 【0029】

2 - (2 - メトキシエトキシ)エチル基、2 - (2 - エトキシエトキシ)エチル基、2 - (2 - n - ブチルオキシエトキシ)エチル基、3 - (2 - エトキシエトキシ)プロピル基、2 - アリルオキシエチル基、2 - (4 - ペンテニルオキシ)エチル基、3 - アリルオキシプロピル基、3 - (2 - ヘキセニルオキシ)プロピル基、3 - (2 - ヘプテニルオキシ)プロピル基、3 - (1 - シクロヘキセニルオキシ)プロピル基、4 - アリルオキシブチル基、

20

## 【0030】

ベンジルオキシメチル基、2 - ベンジルオキシエチル基、2 - フェネチルオキシエチル基、2 - (4 - メチルベンジルオキシ)エチル基、2 - (2 - メチルベンジルオキシ)エチル基、2 - (4 - フルオロベンジルオキシ)エチル基、2 - (4 - クロロベンジルオキシ)エチル基、3 - ベンジルオキシプロピル基、3 - (4 - メトキシベンジルオキシ)プロピル基、4 - ベンジルオキシブチル基、2 - (ベンジルオキシメトキシ)エチル基、2 - (4 - メチルベンジルオキシメトキシ)エチル基、

30

## 【0031】

フェニルオキシメチル基、4 - メチルフェニルオキシメチル基、3 - メチルフェニルオキシメチル基、2 - メチルフェニルオキシメチル基、4 - メトキシフェニルオキシメチル基、4 - フルオロフェニルオキシメチル基、4 - クロロフェニルオキシメチル基、2 - クロロフェニルオキシメチル基、2 - フェニルオキシエチル基、2 - (4 - メチルフェニルオキシ)エチル基、2 - (4 - エチルフェニルオキシ)エチル基、2 - (4 - メトキシフェニルオキシ)エチル基、2 - (4 - クロロフェニルオキシ)エチル基、2 - (4 - ブロモフェニルオキシ)エチル基、2 - (1 - ナフチルオキシ)エチル基、2 - (2 - ナフチルオキシ)エチル基、3 - フェニルオキシプロピル基、3 - (2 - ナフチルオキシ)プロピル基、4 - フェニルオキシブチル基、4 - (2 - エチルフェニルオキシ)ブチル基、5 - (4 - tert - ブチルフェニルオキシ)ペンチル基、6 - (2 - クロロフェニルオキシ)ヘキシル基、8 - フェニルオキシオクチル基、10 - フェニルオキシデシル基、10 - (3 - クロロフェニルオキシ)デシル基、2 - (2 - フェニルオキシエトキシ)エチル基、3 - (2 - フェニルオキシエトキシ)プロピル基、4 - (2 - フェニルオキシエトキシ)ブチル基、

40

## 【0032】

n - ブチルチオメチル基、n - ヘキシルチオメチル基、2 - メチルチオエチル基、2 - エチルチオエチル基、2 - n - ブチルチオエチル基、2 - n - ヘキシルチオエチル基、2 -

50

n - オクチルチオエチル基、2 - n - デシルチオエチル基、3 - メチルチオプロピル基、3 - エチルチオプロピル基、3 - n - ブチルチオプロピル基、4 - エチルチオブチル基、4 - n - プロピルチオブチル基、4 - n - ブチルチオブチル基、5 - エチルチオペンチル基、6 - メチルチオヘキシル基、6 - エチルチオヘキシル基、6 - n - ブチルチオヘキシル基、8 - メチルチオオクチル基、2 - (2 - メトキシエチルチオ)エチル基、4 - (3 - エトキシプロピルチオ)ブチル基、2 - (2 - エチルチオエチルチオ)エチル基、2 - アリルチオエチル基、2 - ベンジルチオエチル基、3 - (4 - メチルベンジルチオ)プロピル基、4 - ベンジルチオブチル基、2 - (2 - ベンジルオキシエチルチオ)エチル基、3 - (3 - ベンジルチオプロピルチオ)プロピル基、

2 - フェニルチオエチル基、2 - (4 - メトキシフェニルチオ)エチル基、2 - (2 - フェニルオキシエチルチオ)エチル基、3 - (2 - フェニルチオエチルチオ)プロピル基、フルオロメチル基、3 - フルオロプロピル基、6 - フルオロヘキシル基、8 - フルオロオクチル基、トリフルオロメチル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロエチル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - プロピル基、1, 1, 3 - トリヒドロ - パーフオロ - n - プロピル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - ブチル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - ペンチル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - ヘキシル基、6 - フルオロヘキシル基、4 - フルオロシクロヘキシル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - オクチル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - デシル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - ドデシル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - テトラデシル基、1, 1 - ジヒドロ - パーフオロ - n - ヘキサデシル基、パーフルオロ - n - ヘキシル基、ジクロロメチル基、2 - クロロエチル基、3 - クロロプロピル基、4 - クロロシクロヘキシル基、7 - クロロヘブチル基、8 - クロロオクチル基、2, 2, 2 - トリクロロエチル基、

【0033】

2 - ヒドロキシエチル基、2 - ヒドロキシプロピル基、3 - ヒドロキシプロピル基、3 - ヒドロキシブチル基、4 - ヒドロキシブチル基、6 - ヒドロキシヘキシル基、5 - ヒドロキシヘブチル基、8 - ヒドロキシオクチル基、10 - ヒドロキシデシル基、12 - ヒドロキシドデシル基、2 - ヒドロキシシクロヘキシル基などを挙げることができる。

【0034】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアルコキシ基の具体例としては、例えば、上記のアルキル基に酸素原子が結合した形式で表されるアルコキシ基を挙げることができる。

【0035】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアラルキル基の具体例としては、ベンジル基、 - メチルベンジル基、 - エチルベンジル基、フェネチル基、 - メチルフェネチル基、 - メチルフェネチル基、 , - ジメチルベンジル基、 , - ジメチルフェネチル基、4 - メチルフェネチル基、4 - メチルベンジル基、3 - メチルベンジル基、2 - メチルベンジル基、4 - エチルベンジル基、2 - エチルベンジル基、4 - イソプロピルベンジル基、4 - tert - ブチルベンジル基、2 - tert - ブチルベンジル基、4 - tert - ペンチルベンジル基、4 - シクロヘキシルベンジル基、4 - n - オクチルベンジル基、4 - tert - オクチルベンジル基、4 - アリルベンジル基、4 - ベンジルベンジル基、4 - フェネチルベンジル基、4 - フェニルベンジル基、4 - (4 - メチルフェニル)ベンジル基、4 - メトキシベンジル基、2 - メトキシベンジル基、2 - エトキシベンジル基、4 - n - ブトキシベンジル基、4 - n - ヘブチルオキシベンジル基、4 - n - デシルオキシベンジル基、4 - n - テトラデシルオキシベンジル基、4 - n - ヘプタデシルオキシベンジル基、

【0036】

3, 4 - ジメトキシベンジル基、4 - メトキシメチルベンジル基、4 - イソブチルオキシメチルベンジル基、4 - アリルオキシベンジル基、4 - ビニルオキシメチルベンジル基、4 - ベンジルオキシベンジル基、4 - フェネチルオキシベンジル基、4 - フェニルオキシベンジル基、3 - フェニルオキシベンジル基、

10

20

30

40

50

4 - ヒドロキシベンジル基、3 - ヒドロキシベンジル基、2 - ヒドロキシベンジル基、4 - ヒドロキシ - 3 - メトキシベンジル基、4 - フルオロベンジル基、2 - フルオロベンジル基、4 - クロロベンジル基、3 - クロロベンジル基、2 - クロロベンジル基、3, 4 - ジクロロベンジル基、2 - フルフリル基、ジフェニルメチル基、1 - ナフチルメチル基、2 - ナフチルメチル基などを挙げることができる。

【0037】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアラルキルオキシ基の具体例としては、例えば、上記のアラルキル基に酸素原子が結合した形式で表されるアラルキルオキシ基を挙げることができる。

【0038】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアリアル基の具体例としては、例えば、フェニル基、1 - ナフチル基、2 - ナフチル基、2 - アントラセニル基、9 - アントラセニル基、9 - (1 - ピレニル) アントラセニル基、フルオレニル基、4 - キノリル基、5 - ピリジル基、4 - ピリジル基、3 - ピリジル基、2 - ピリジル基、2 - ピリミジル基、4 - ピリミジル基、5 - ピリミジル基、2 - ピリダジニル基、2 - ピラジニル基、3 - フリル基、2 - フリル基、3 - チエニル基、2 - チエニル基、2 - オキサゾリル基、2 - チアゾリル基、2 - ベンゾオキサゾリル基、2 - ベンゾチアゾリル基、2 - ベンゾイミダゾリル基、4 - メチルフェニル基、3 - メチルフェニル基、2 - メチルフェニル基、4 - エチルフェニル基、3 - エチルフェニル基、2 - エチルフェニル基、4 - n - プロピルフェニル基、4 - イソプロピルフェニル基、2 - イソプロピルフェニル基、4 - n - ブチルフェニル基、4 - イソブチルフェニル基、4 - sec - ブチルフェニル基、2 - sec - ブチルフェニル基、4 - tert - ブチルフェニル基、3 - tert - ブチルフェニル基、2 - tert - ブチルフェニル基、4 - n - ペンチルフェニル基、4 - イソペンチルフェニル基、4 - tert - ペンチルフェニル基、4 - n - ヘキシルフェニル基、4 - n - ヘプチルフェニル基、4 - n - オクチルフェニル基、4 - (2 - エチルヘキシル) フェニル基、4 - tert - オクチルフェニル基、4 - n - ノニルフェニル基、4 - n - デシルフェニル基、4 - n - ドデシルフェニル基、4 - n - テトラデシルフェニル基、4 - n - ヘキサデシルフェニル基、4 - n - オクタデシルフェニル基、4 - シクロペンチルフェニル基、4 - シクロヘキシルフェニル基、4 - (4 - tert - ブチルシクロヘキシル) フェニル基、4 - (4 - メチルシクロヘキシル) フェニル基、3 - シクロヘキシルフェニル基、2 - シクロヘキシルフェニル基、4 - エチル - 1 - ナフチル基、6 - n - ブチル - 2 - ナフチル基、

【0039】

2, 3 - ジメチルフェニル基、2, 4 - ジメチルフェニル基、2, 5 - ジメチルフェニル基、3, 4 - ジメチルフェニル基、3, 5 - ジメチルフェニル基、2, 6 - ジメチルフェニル基、2, 3, 5 - トリメチルフェニル基、3, 4, 5 - トリメチルフェニル基、2, 4 - ジエチルフェニル基、2, 3, 6 - トリメチルフェニル基、2, 4, 6 - トリメチルフェニル基、2, 6 - ジエチルフェニル基、2, 6 - ジイソプロピルフェニル基、2, 6 - ジイソブチルフェニル基、2, 4 - ジ - tert - ブチルフェニル基、2, 5 - ジ - tert - ブチルフェニル基、3, 5 - ジ - tert - ブチルフェニル基、2, 4 - ジネオペンチルフェニル基、2, 5 - ジ - tert - ペンチルフェニル基、4, 6 - ジ - tert - ブチル - 2 - メチルフェニル基、5 - tert - ブチル - 2 - メチルフェニル基、4 - tert - ブチル - 2, 6 - ジメチルフェニル基、2, 3, 5, 6 - テトラメチルフェニル基、5 - インダニル基、1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 5 - ナフチル基、1, 2, 3, 4 - テトラヒドロ - 6 - ナフチル基、

【0040】

4 - メトキシフェニル基、3 - メトキシフェニル基、2 - メトキシフェニル基、4 - エトキシフェニル基、2 - エトキシフェニル基、3 - n - プロピルオキシフェニル基、4 - イソプロピルオキシフェニル基、2 - イソプロピルオキシフェニル基、4 - n - ブチルオキシフェニル基、4 - イソブチルオキシフェニル基、2 - イソブチルオキシフェニル基、2 - sec - ブチルオキシフェニル基、4 - n - ペンチルオキシフェニル基、4 - イソペンチルオキシフェニル基、2 - イソペンチルオキシフェニル基、2 - ネオペンチルオキシフェ

ニル基、4 - n - ヘキシルオキシフェニル基、2 - (2 - エチルブチルオキシ)フェニル基、4 - n - オクチルオキシフェニル基、4 - n - デシルオキシフェニル基、4 - n - ドデシルオキシフェニル基、4 - n - テトラデシルオキシフェニル基、4 - n - ヘキサデシルオキシフェニル基、4 - n - オクタデシルオキシフェニル基、4 - シクロヘキシルオキシフェニル基、2 - シクロヘキシルオキシフェニル基、

2 - メトキシ - 1 - ナフチル基、4 - メトキシ - 1 - ナフチル基、4 - n - ブチルオキシ - 1 - ナフチル基、5 - エトキシ - 1 - ナフチル基、6 - エトキシ - 2 - ナフチル基、6 - n - ブチルオキシ - 2 - ナフチル基、6 - n - ヘキシルオキシ - 2 - ナフチル基、7 - メトキシ - 2 - ナフチル基、7 - n - ブチルオキシ - 2 - ナフチル基、

【0041】

2, 3 - ジメトキシフェニル基、2, 4 - ジメトキシフェニル基、2, 5 - ジメトキシフェニル基、2, 6 - ジメトキシフェニル基、3, 4 - ジメトキシフェニル基、3, 5 - ジメトキシフェニル基、3, 5 - ジエトキシフェニル基、3, 5 - ジ - n - ブチルオキシフェニル基、2 - メトキシ - 4 - メチルフェニル基、2 - メトキシ - 5 - メチルフェニル基、2 - メチル - 4 - メトキシフェニル基、3 - メチル - 4 - メトキシフェニル基、3 - メチル - 5 - メトキシフェニル基、3 - エチル - 5 - メトキシフェニル基、2 - メトキシ - 4 - エトキシフェニル基、2 - メトキシ - 6 - エトキシフェニル基、3, 4, 5 - トリメトキシフェニル基、

【0042】

4 - フルオロフェニル基、3 - フルオロフェニル基、2 - フルオロフェニル基、4 - クロロフェニル基、3 - クロロフェニル基、2 - クロロフェニル基、4 - ブロモフェニル基、2 - ブロモフェニル基、4 - クロロ - 1 - ナフチル基、4 - クロロ - 2 - ナフチル基、6 - ブロモ - 2 - ナフチル基、2, 3 - ジフルオロフェニル基、2, 4 - ジフルオロフェニル基、2, 5 - ジフルオロフェニル基、2, 6 - ジフルオロフェニル基、3, 4 - ジフルオロフェニル基、3, 5 - ジフルオロフェニル基、2, 3 - ジクロロフェニル基、2, 4 - ジクロロフェニル基、2, 5 - ジクロロフェニル基、2, 6 - ジクロロフェニル基、3, 4 - ジクロロフェニル基、3, 5 - ジクロロフェニル基、2, 5 - ジブロモフェニル基、2, 4, 6 - トリクロロフェニル基、2, 3, 6 - トリブロモフェニル基、3, 4, 5 - トリフルオロフェニル基、2, 4 - ジクロロ - 1 - ナフチル基、1, 6 - ジクロロ - 2 - ナフチル基、

【0043】

2 - フルオロ - 4 - メチルフェニル基、2 - フルオロ - 5 - メチルフェニル基、3 - フルオロ - 2 - メチルフェニル基、3 - フルオロ - 4 - メチルフェニル基、4 - フルオロ - 2 - メチルフェニル基、5 - フルオロ - 2 - メチルフェニル基、2 - クロロ - 4 - メチルフェニル基、2 - クロロ - 5 - メチルフェニル基、2 - クロロ - 6 - メチルフェニル基、3 - クロロ - 2 - メチルフェニル基、4 - クロロ - 2 - メチルフェニル基、4 - クロロ - 3 - メチルフェニル基、2 - クロロ - 4, 6 - ジメチルフェニル基、2 - フルオロ - 4 - メトキシフェニル基、2 - フルオロ - 6 - メトキシフェニル基、3 - フルオロ - 4 - エトキシフェニル基、5 - クロロ - 2 - メトキシフェニル基、6 - クロロ - 3 - メトキシフェニル基、5 - クロロ - 2, 4 - ジメトキシフェニル基、2 - クロロ - 4 - ニトロフェニル基、4 - クロロ - 2 - ニトロフェニル基、

4 - トリフルオロメチルフェニル基、3 - トリフルオロメチルフェニル基、2 - トリフルオロメチルフェニル基、3, 5 - ビス(トリフルオロメチル)フェニル基、

4 - トリフルオロメチルオキシフェニル基、

【0044】

4 - アリルフェニル基、2 - アリルフェニル基、2 - イソプロペニルフェニル基、4 - ベンジルフェニル基、2 - ベンジルフェニル基、4 - (4 - メチルベンジル)フェニル基、4 - クミルフェニル基、4 - (4 - メトキシクミル)フェニル基、

4 - フェニルフェニル基、3 - フェニルフェニル基、2 - フェニルフェニル基、4 - (4 - メチルフェニル)フェニル基、4 - (4 - エチルフェニル)フェニル基、4 - (4 - イ

10

20

30

40

50

ソプロピルフェニル)フェニル基、4-(4-tert-ブチルフェニル)フェニル基、4-(4-n-ヘキシルフェニル)フェニル基、4-(4-n-オクチルフェニル)フェニル基、4-(4-メトキシフェニル)フェニル基、4-(4-エトキシフェニル)フェニル基、4-(4-n-ブトキシフェニル)フェニル基、2-(2-メトキシフェニル)フェニル基、4-(4-フルオロフェニル)フェニル基、4-(4-クロロフェニル)フェニル基、3-メチル-4-フェニル基、2-メトキシ-5-フェニルフェニル基、3-メトキシ-4-フェニルフェニル基、

## 【0045】

4-メトキシメチルフェニル基、4-エトキシメチルフェニル基、4-n-ブチルオキシメチルフェニル基、3-メトキシメチルフェニル基、4-(2-メトキシエチル)フェニル基、4-(2-エトキシエチルオキシ)フェニル基、4-(2-n-ブチルオキシエチルオキシ)フェニル基、4-(3-エトキシプロピルオキシ)フェニル基、4-ビニルオキシフェニル基、4-アリルオキシフェニル基、3-アリルオキシフェニル基、4-(4-ペンテニルオキシ)フェニル基、4-アリルオキシ-1-ナフチル基、4-アリルオキシメチルフェニル基、4-(2-アリルオキシエチルオキシ)フェニル基、

10

## 【0046】

4-ベンジルオキシフェニル基、2-ベンジルオキシフェニル基、4-フェネチルオキシフェニル基、4-(4-クロロベンジルオキシ)フェニル基、4-(4-メチルベンジルオキシ)フェニル基、4-(4-メトキシベンジルオキシ)フェニル基、4-(3-エトキシベンジルオキシ)フェニル基、4-ベンジルオキシ-1-ナフチル基、5-(4-メチルベンジルオキシ)-1-ナフチル基、6-ベンジルオキシ-2-ナフチル基、6-(4-メチルベンジルオキシ)-2-ナフチル基、7-ベンジルオキシ-2-ナフチル基、4-(ベンジルオキシメチル)フェニル基、4-(2-ベンジルオキシエチルオキシ)フェニル基、

20

## 【0047】

4-フェニルオキシフェニル基、3-フェニルオキシフェニル基、2-フェニルオキシフェニル基、4-(4-メチルフェニルオキシ)フェニル基、4-(4-メトキシフェニルオキシ)フェニル基、4-(4-クロロフェニルオキシ)フェニル基、4-フェニルオキシ-1-ナフチル基、6-フェニルオキシ-2-ナフチル基、7-フェニルオキシ-2-ナフチル基、4-フェニルオキシメチルフェニル基、4-(2-フェニルオキシエトキシ)フェニル基、4-[2-(4-メチルフェニルオキシ)エトキシ]フェニル基、4-[2-(4-メトキシフェニルオキシ)エトキシ]フェニル基、4-[2-(4-クロロフェニルオキシ)エトキシ]フェニル基、

30

4-アセチルフェニル基、3-アセチルフェニル基、2-アセチルフェニル基、4-エチルカルボニルフェニル基、2-エチルカルボニルフェニル基、4-n-ブチルカルボニルフェニル基、4-n-ヘキシルカルボニルフェニル基、4-n-オクチルカルボニルフェニル基、4-シクロヘキシルカルボニルフェニル基、4-アセチル-1-ナフチル基、6-アセチル-2-ナフチル基、6-n-ブチルカルボニル-2-ナフチル基、4-アリルカルボニルフェニル基、4-ベンジルカルボニルフェニル基、4-(4-メチルベンジル)カルボニルフェニル基、4-フェニルカルボニルフェニル基、4-(4-メチルフェニル)カルボニルフェニル基、4-(4-クロロフェニル)カルボニルフェニル基、4-フェニルカルボニル-1-ナフチル基、

40

## 【0048】

4-メトキシカルボニルフェニル基、2-メトキシカルボニルフェニル基、4-エトキシカルボニルフェニル基、3-エトキシカルボニルフェニル基、4-n-プロピルオキシカルボニルフェニル基、4-n-ブチルオキシカルボニルフェニル基、4-n-ヘキシルオキシカルボニルフェニル基、4-n-デシルオキシカルボニルフェニル基、4-シクロヘキシルオキシカルボニルフェニル基、4-エトキシカルボニル-1-ナフチル基、6-メトキシカルボニル-2-ナフチル基、6-n-ブチルオキシカルボニル-2-ナフチル基

50

、 4 - アリルオキシカルボニルフェニル基、 4 - ベンジルオキシカルボニルフェニル基、  
 4 - ( 4 - クロロベンジル ) オキシカルボニルフェニル基、 4 - フェネチルオキシカルボ  
 ニルフェニル基、 6 - ベンジルオキシカルボニル - 2 - ナフチル基、 4 - フェニルオキシ  
 カルボニルフェニル基、 4 - ( 4 - エチルフェニル ) オキシカルボニルフェニル基、 4 -  
 ( 4 - クロロフェニル ) オキシカルボニルフェニル基、 4 - ( 4 - エトキシフェニル ) オ  
 キシカルボニルフェニル基、 6 - フェニルオキシカルボニル - 2 - ナフチル基、

## 【 0 0 4 9 】

4 - アセチルオキシフェニル基、 3 - アセチルオキシフェニル基、 2 - アセチルオキシフ  
 エニル基、 4 - エチルカルボニルオキシフェニル基、 2 - エチルカルボニルオキシフェニ  
 ル基、 4 - n - プロピルカルボニルオキシフェニル基、 4 - n - ペンチルカルボニルオキ  
 シフェニル基、 4 - n - オクチルカルボニルオキシフェニル基、 4 - シクロヘキシルカル  
 ボニルオキシフェニル基、 3 - シクロヘキシルカルボニルオキシフェニル基、 4 - アセチ  
 ルオキシ - 1 - ナフチル基、 4 - n - ブチルカルボニルオキシ - 1 - ナフチル基、 5 - ア  
 セチルオキシ - 1 - ナフチル基、 6 - エチルカルボニルオキシ - 2 - ナフチル基、 7 - ア  
 セチルオキシ - 2 - ナフチル基、 4 - アリルカルボニルオキシフェニル基、 4 - ベンジル  
 カルボニルオキシフェニル基、 4 - フェネチルカルボニルオキシフェニル基、 6 - ベンジ  
 ルカルボニルオキシ - 2 - ナフチル基、

10

4 - フェニルカルボニルオキシフェニル基、 4 - ( 4 - メチルフェニル ) カルボニルオキ  
 シフェニル基、 4 - ( 2 - メチルフェニル ) カルボニルオキシフェニル基、 4 - ( 4 - ク  
 ロロフェニル ) カルボニルオキシフェニル基、 4 - ( 2 - クロロフェニル ) カルボニルオ  
 キシフェニル基、 4 - フェニルカルボニルオキシ - 1 - ナフチル基、 6 - フェニルカルボ  
 ニルオキシ - 2 - ナフチル基、 7 - フェニルカルボニルオキシ - 2 - ナフチル基、

20

## 【 0 0 5 0 】

4 - メチルチオフェニル基、 2 - メチルチオフェニル基、 2 - エチルチオフェニル基、 3  
 - エチルチオフェニル基、 4 - n - プロピルチオフェニル基、 2 - イソプロピルチオフェ  
 ニル基、 4 - n - ブチルチオフェニル基、 2 - イソブチルチオフェニル基、 2 - ネオペン  
 チルチオフェニル基、 4 - n - ヘキシルチオフェニル基、 4 - n - オクチルチオフェニル  
 基、 4 - シクロヘキシルチオフェニル基、

4 - ベンジルチオフェニル基、 3 - ベンジルチオフェニル基、 2 - ベンジルチオフェニル  
 基、 4 - ( 4 - クロロベンジルチオ ) フェニル基、 4 - フェニルチオフェニル基、 3 - フ  
 エニルチオフェニル基、 2 - フェニルチオフェニル基、 4 - ( 4 - メチルフェニルチオ )  
 フェニル基、 4 - ( 3 - メチルフェニルチオ ) フェニル基、 4 - ( 4 - メトキシフェニル  
 チオ ) フェニル基、 4 - ( 4 - クロロフェニルチオ ) フェニル基、 2 - エチルチオ - 1 -  
 ナフチル基、 4 - メチルチオ - 1 - ナフチル基、 6 - エチルチオ - 2 - ナフチル基、 6 -  
 フェニルチオ - 2 - ナフチル基、

30

## 【 0 0 5 1 】

4 - ニトロフェニル基、 3 - ニトロフェニル基、 2 - ニトロフェニル基、 3 , 5 - ジニト  
 ロフェニル基、 4 - ニトロ - 1 - ナフチル基、 4 - ホルミルフェニル基、 3 - ホルミルフ  
 エニル基、 2 - ホルミルフェニル基、 4 - ホルミル - 1 - ナフチル基、 1 - ホルミル - 2  
 - ナフチル基、

40

## 【 0 0 5 2 】

4 - ピロリジノフェニル基、 4 - ピペリジノフェニル基、 4 - モルフォリノフェニル基、  
 4 - ( N - エチルピペラジノ ) フェニル基、 4 - ピロリジノ - 1 - ナフチル基、

## 【 0 0 5 3 】

4 - アミノフェニル基、 3 - アミノフェニル基、 2 - アミノフェニル基、  
 4 - ( N - メチルアミノ ) フェニル基、 3 - ( N - メチルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N  
 - エチルアミノ ) フェニル基、 2 - ( N - イソプロピルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N -  
 n - ブチルアミノ ) フェニル基、 2 - ( N - n - ブチルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N -  
 n - オクチルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N - n - ドデシルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N  
 - ベンジルアミノ ) フェニル基、 4 - ( N - フェニルアミノ ) フェニル基、 2 - ( N -

50

フェニルアミノ)フェニル基、

【0054】

4-(N,N-ジメチルアミノ)フェニル基、3-(N,N-ジメチルアミノ)フェニル基、4-(N,N-ジエチルアミノ)フェニル基、2-(N,N-ジメチルアミノ)フェニル基、2-(N,N-ジエチルアミノ)フェニル基、4-(N,N-ジ-n-ブチルアミノ)フェニル基、4-(N,N-ジ-n-ヘキシルアミノ)フェニル基、4-(N-シクロヘキシル-N-メチルアミノ)フェニル基、4-(N,N-ジエチルアミノ)-1-ナフチル基、4-(N-ベンジル-N-フェニルアミノ)フェニル基、4-(N,N-ジフェニルアミノ)フェニル基、4-[N-フェニル-N-(4-メチルフェニル)アミノ]フェニル基、4-[N,N-ジ(3-メチルフェニル)アミノ]フェニル基、4-[N,N-ジ(4-メチルフェニル)アミノ]フェニル基、4-[N,N-ジ(4-メトキシフェニル)アミノ]フェニル基、2-(N,N-ジフェニルアミノ)フェニル基、

10

【0055】

4-ヒドロキシフェニル基、3-ヒドロキシフェニル基、2-ヒドロキシフェニル基、4-メチル-3-ヒドロキシフェニル基、6-メチル-3-ヒドロキシフェニル基、2-ヒドロキシ-1-ナフチル基、8-ヒドロキシ-1-ナフチル基、4-ヒドロキシ-1-ナフチル基、1-ヒドロキシ-2-ナフチル基、6-ヒドロキシ-2-ナフチル基、4-シアノフェニル基、2-シアノフェニル基、4-シアノ-1-ナフチル基、6-シアノ-2-ナフチル基などを挙げることができる。

【0056】

$Y_1 \sim Y_{10}$  のアリーロキシ基の具体例としては、例えば、上記のアリール基に酸素原子が結合した形式で表されるアリーロキシ基を挙げることができる。

20

【0057】

式(2)、(3)、(4)において、 $R_1 \sim R_9$  は、水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基またはアリーロキシ基を表す。この場合のアミノ基、アルキルカルボニル基、アルキル基、アルコキシ基、アラルキル基、アラルキルオキシ基、アリール基、アリーロキシ基には、それぞれ、置換または未置換のアミノ基、直鎖、分岐または環状のアルキルカルボニル基、直鎖、分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状アルコキシ基、置換または未置換のアラルキル基、置換または未置換のアラルキルオキシ基、置換または未置換のアリール基、置換または未置換のアリーロキシ基が包含される(以下、同じ)。 $R_1 \sim R_9$  の隣合う基は、それぞれ隣接する基と共に環を形成していてもよい。

30

【0058】

$R_1 \sim R_9$  は、好ましくは、水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、エステル基、炭素数1~10のアルキルカルボニル基、炭素数1~10のアルキル基、炭素数1~10のアルコキシ基、炭素数7~20のアラルキル基、炭素数7~20のアラルキルオキシ基、炭素数4~20のアリール基または炭素数4~20のアリーロキシ基を表し、より好ましくは、水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、アミノ基、炭素数1~8のアルキルカルボニル基、炭素数1~8のアルキル基、炭素数1~8のアルコキシ基、炭素数7~16のアラルキル基、炭素数7~16のアラルキルオキシ基、炭素数4~16のアリール基または炭素数4~16のアリーロキシ基を表す。ここで、アリール基は、炭素環式芳香族基および複素環式芳香族を表す。

40

【0059】

$R_1 \sim R_9$  のハロゲン原子の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のハロゲン原子の具体例として挙げたハロゲン原子を挙げることができる。

【0060】

$R_1 \sim R_9$  のアミノ基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアミノ基の具体例として挙げたアミノ基を挙げることができる。

【0061】

50

$R_1 \sim R_9$  のエステル基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のエステル基の具体例として挙げたエステル基を挙げるができる。

【0062】

$R_1 \sim R_9$  のアルキルカルボニル基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアルキルカルボニル基の具体例として挙げたアルキルカルボニル基を挙げるができる。

【0063】

$R_1 \sim R_9$  のアルキル基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアルキル基の具体例として挙げたアルキル基を挙げるができる。

【0064】

$R_1 \sim R_9$  のアルコキシ基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアルキル基の具体例として挙げたアルキル基に酸素原子が結合した形式で表されるアルコキシ基を挙げるができる。

10

【0065】

$R_1 \sim R_9$  のアラルキル基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアラルキル基の具体例として挙げたアラルキル基を挙げるができる。

【0066】

$R_1 \sim R_9$  のアラルキルオキシ基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアラルキル基の具体例として挙げたアラルキル基に酸素原子が結合した形式で表されるアラルキルオキシ基を挙げるができる。

【0067】

$R_1 \sim R_9$  のアリール基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアリール基の具体例として挙げたアリール基を挙げるができる。

20

【0068】

$R_1 \sim R_9$  のアリールオキシ基の具体例としては、 $Y_1 \sim Y_{10}$  のアリール基の具体例として挙げたアリール基に酸素原子が結合した形式で表されるアリールオキシ基を挙げるができる。

【0069】

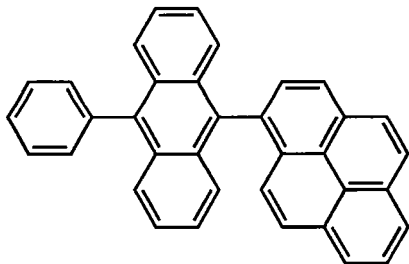
本発明に係る式(1)で表されるアントラセン化合物の具体例としては、例えば、以下に示す化合物(化12~化42)を挙げるができるが、本発明はこれらに限定されるものではない。

30

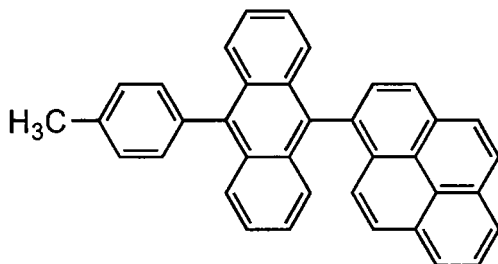
【0070】

【化 1 2】

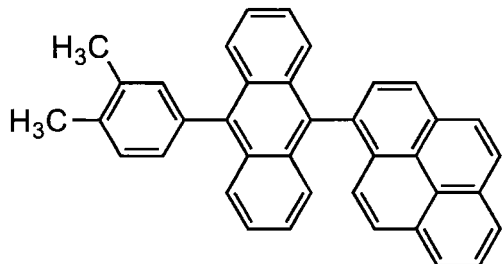
1



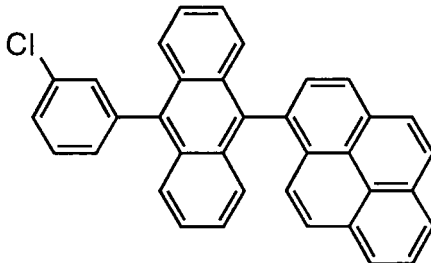
2



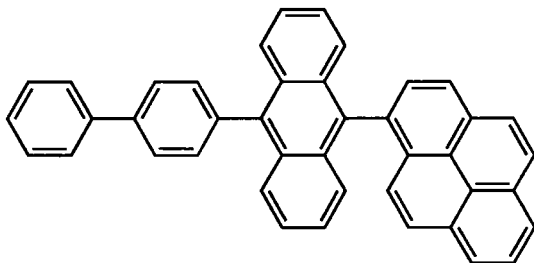
3



4



5



10

20

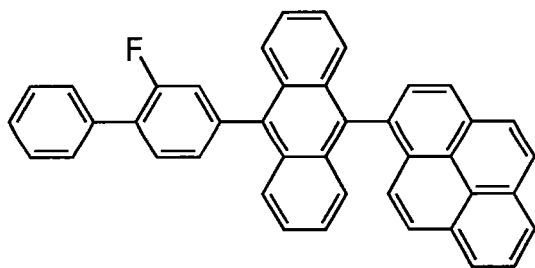
30

40

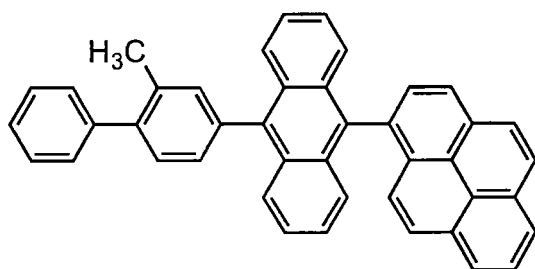
【 0 0 7 1 】

【化 1 3】

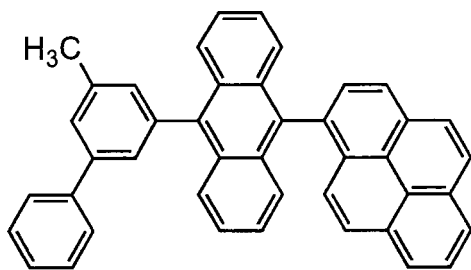
6



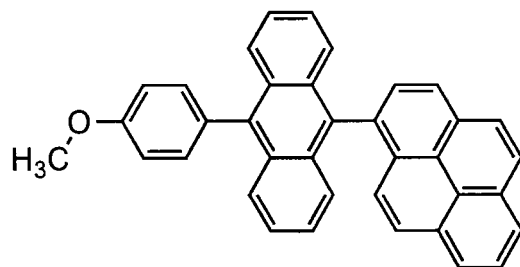
7



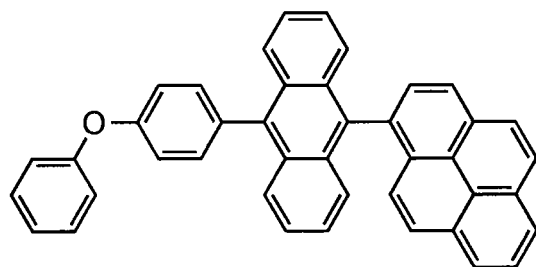
8



9



10



10

20

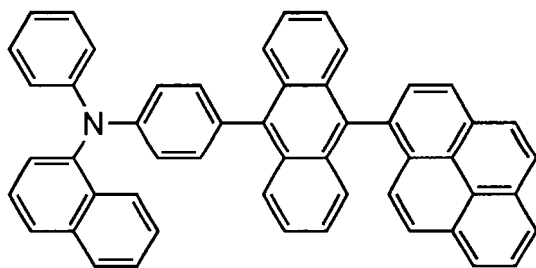
30

40

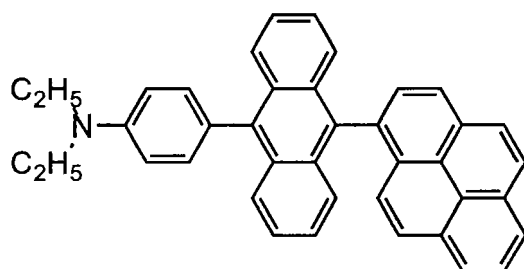
【 0 0 7 2 】

【化 1 4】

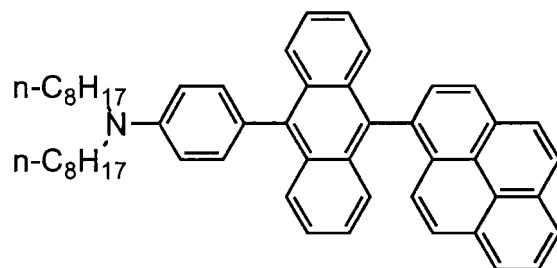
11



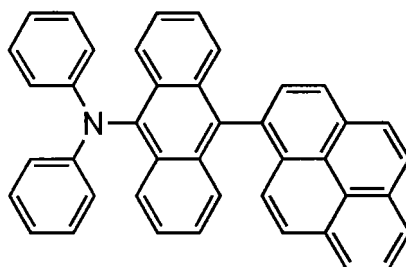
12



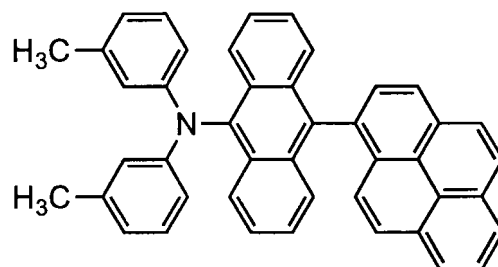
13



14



15



10

20

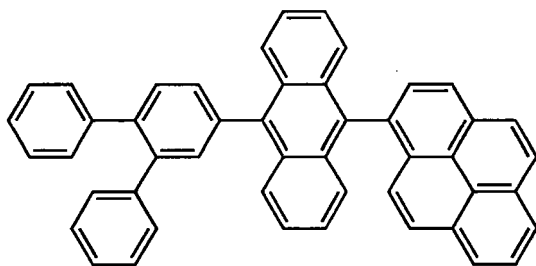
30

40

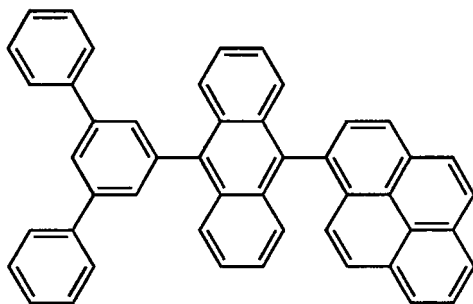
【 0 0 7 3 】

【化 1 5】

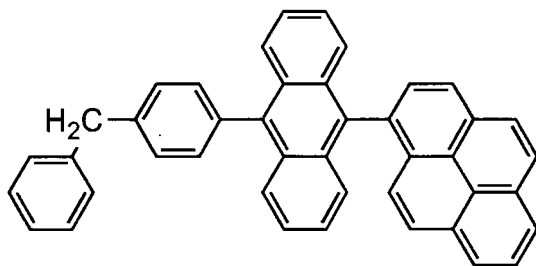
16



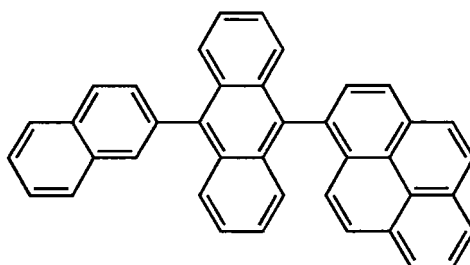
17



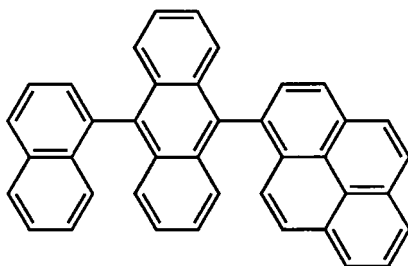
18



19



20



10

20

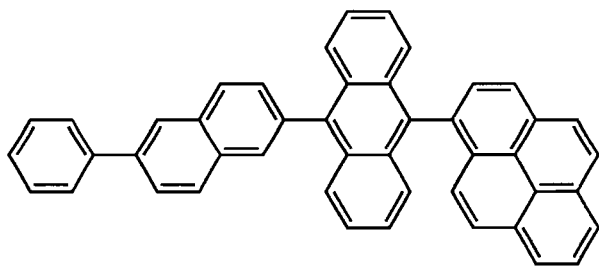
30

40

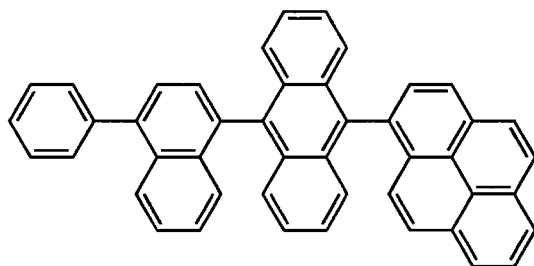
【 0 0 7 4 】

【化 1 6】

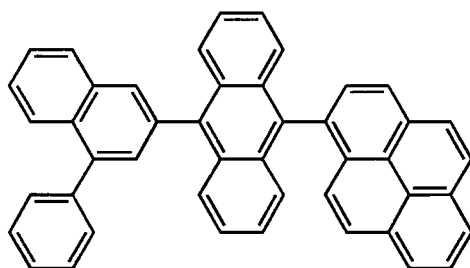
21



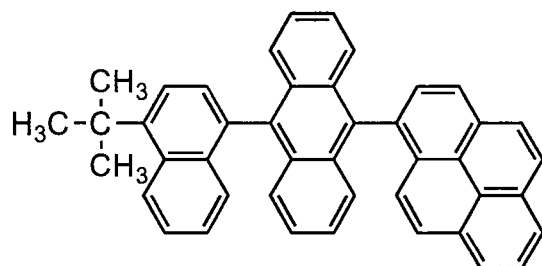
22



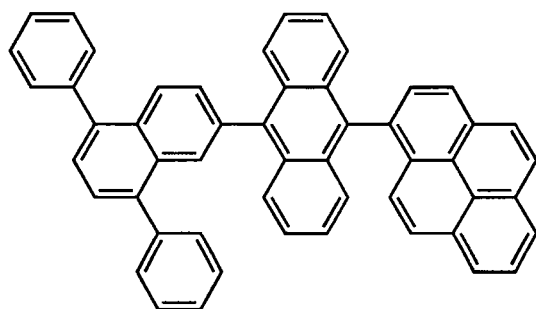
23



24



25



10

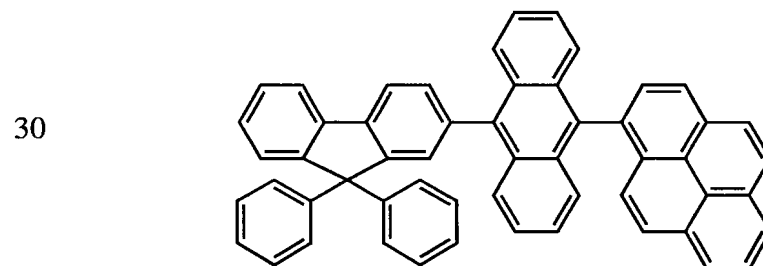
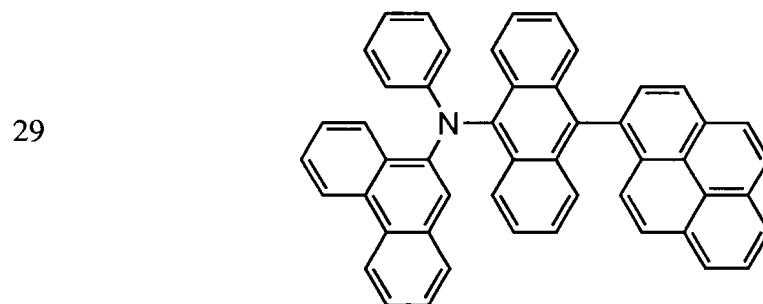
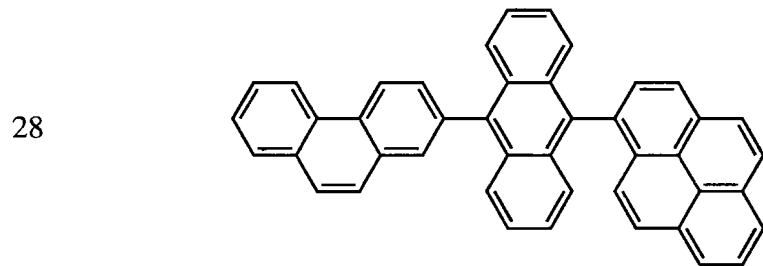
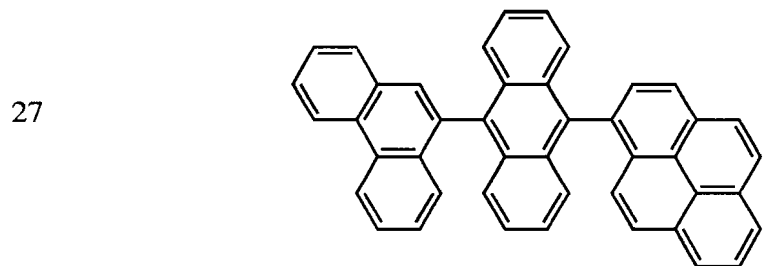
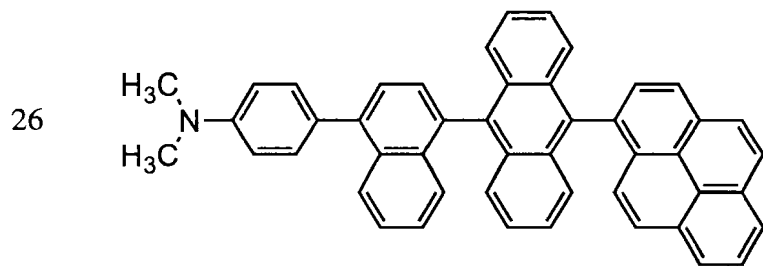
20

30

40

【 0 0 7 5 】

【化 1 7】



10

20

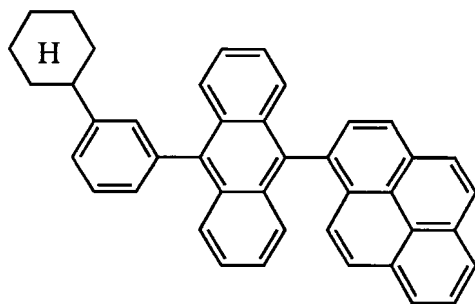
30

40

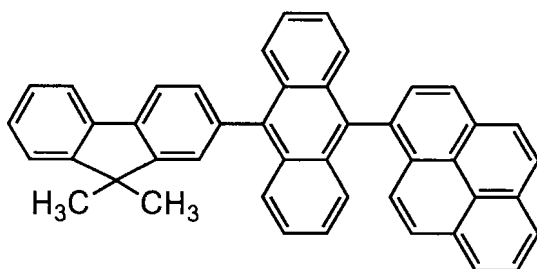
【 0 0 7 6 】

【化 1 8】

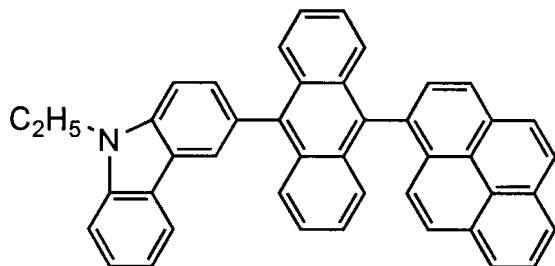
31



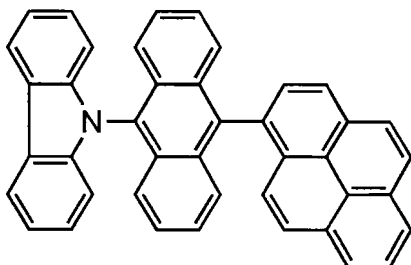
32



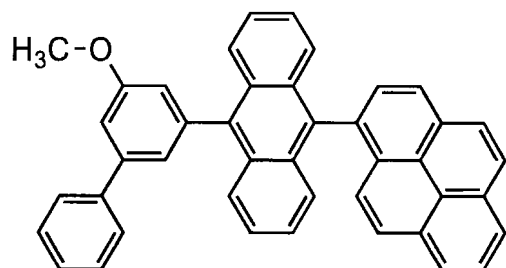
33



34



35



10

20

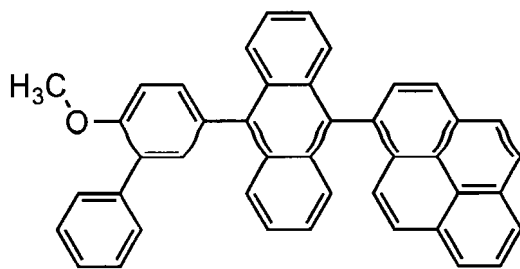
30

40

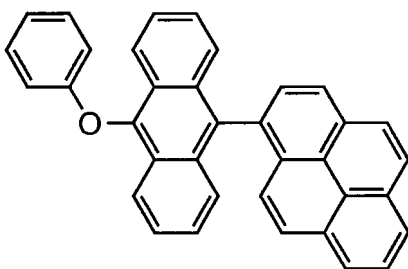
【 0 0 7 7 】

【化 1 9】

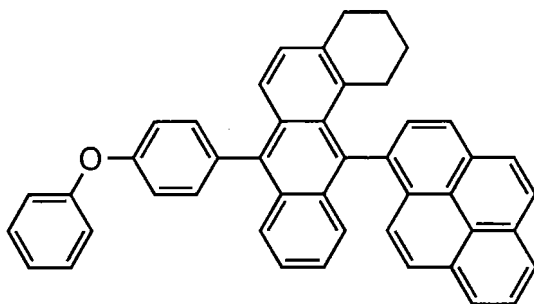
36



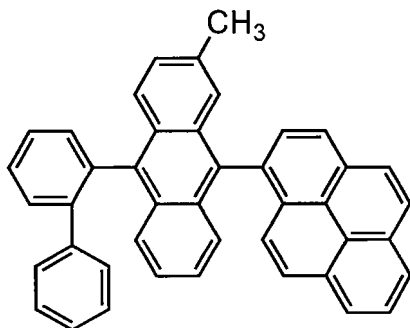
37



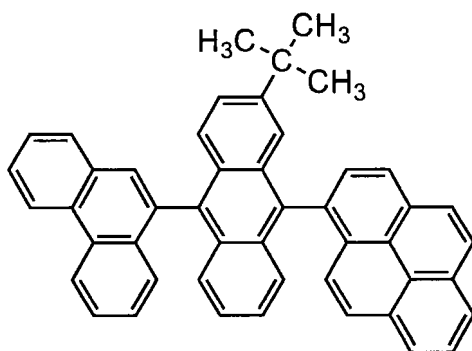
38



39



40



10

20

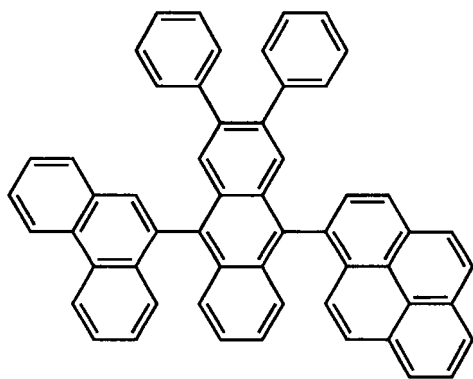
30

40

【 0 0 7 8 】

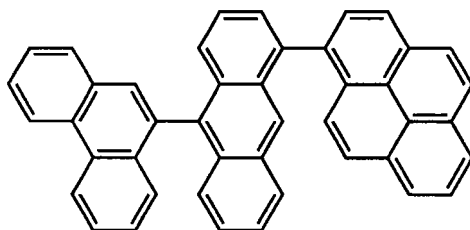
【化 2 0】

41



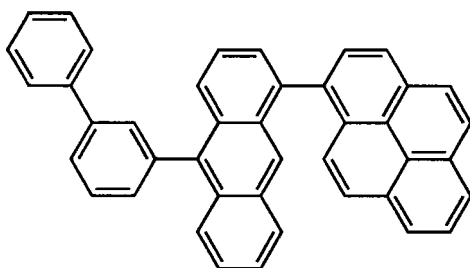
10

42



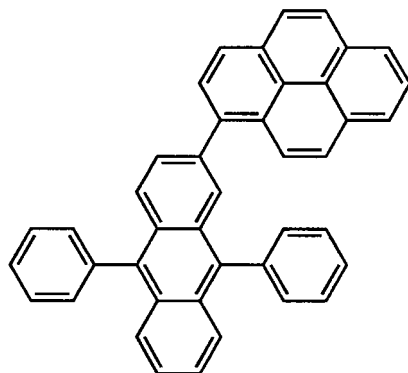
20

43



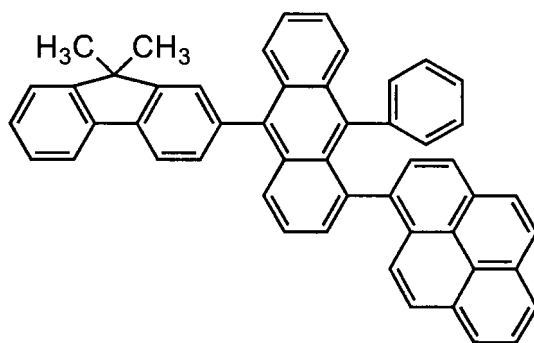
30

44



40

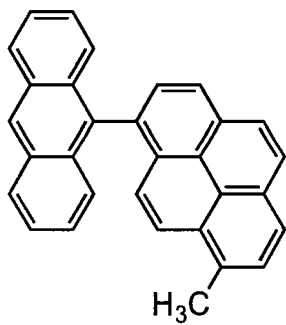
45



【 0 0 7 9】

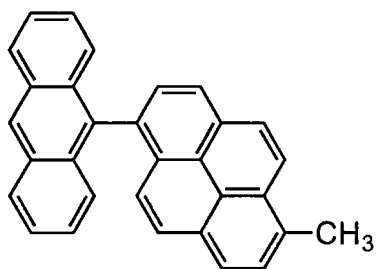
【化 2 1】

46



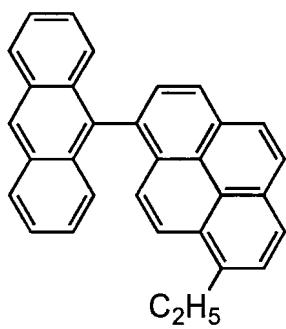
10

47



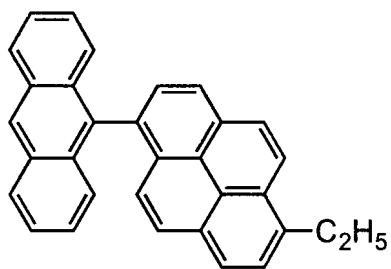
20

48



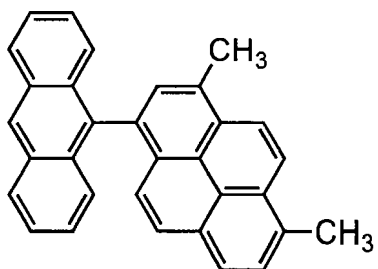
30

49



40

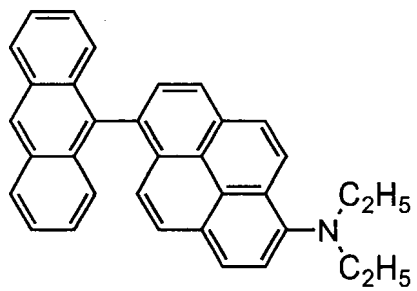
50



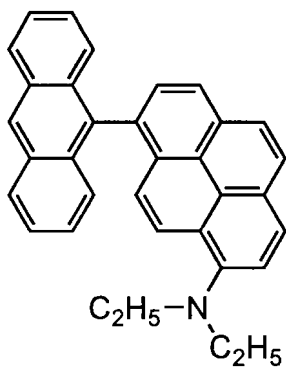
【 0 0 8 0 】

【化 2 2】

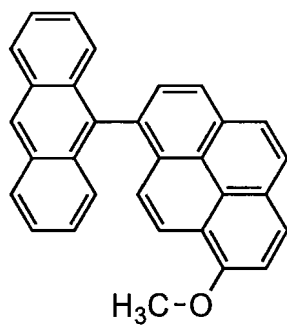
51



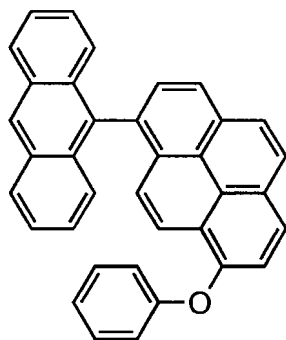
52



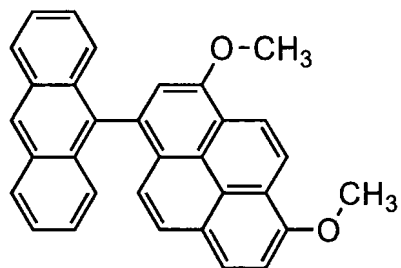
53



54



55



10

20

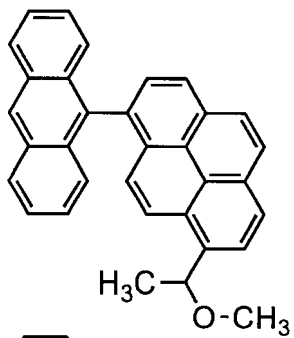
30

40

【 0 0 8 1 】

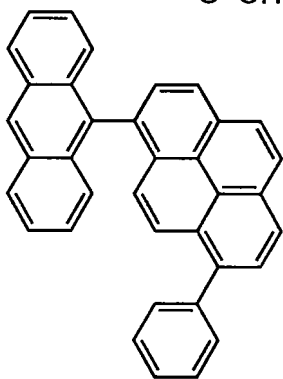
【化 2 3】

56



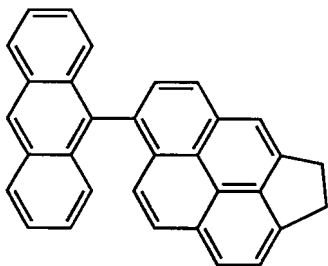
10

57



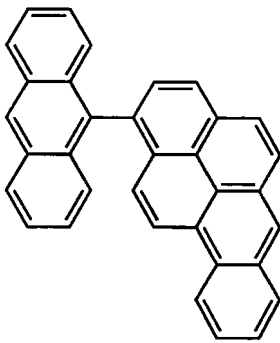
20

58



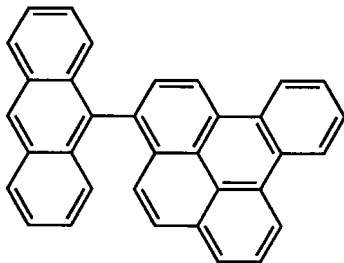
30

59



40

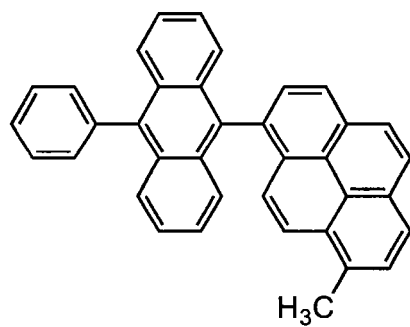
60



【 0 0 8 2 】

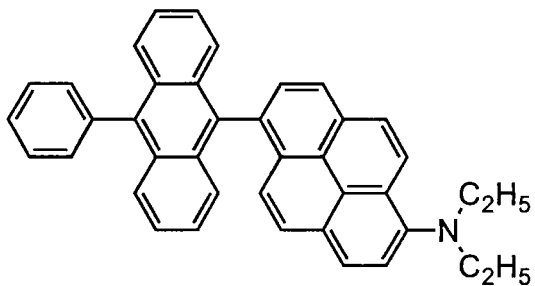
【化 2 4】

61



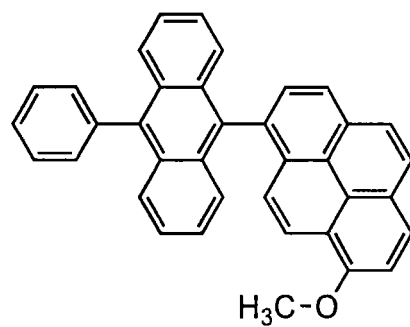
10

62



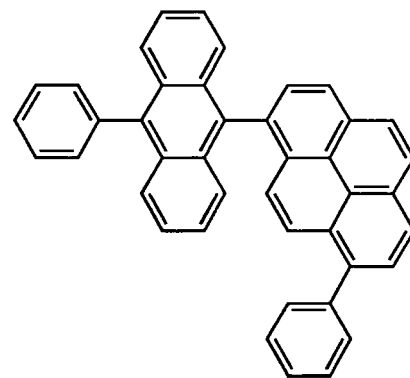
20

63



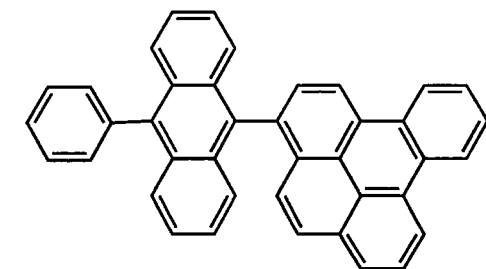
30

64



40

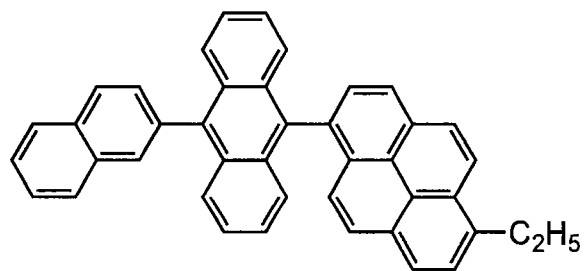
65



【 0 0 8 3 】

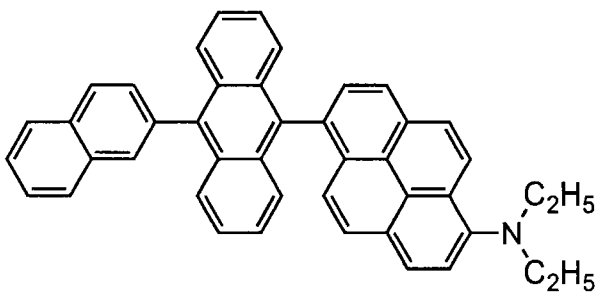
【化 2 5】

66



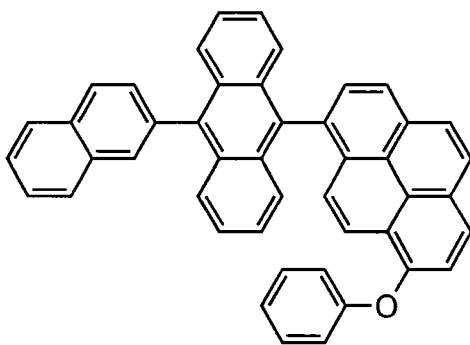
10

67



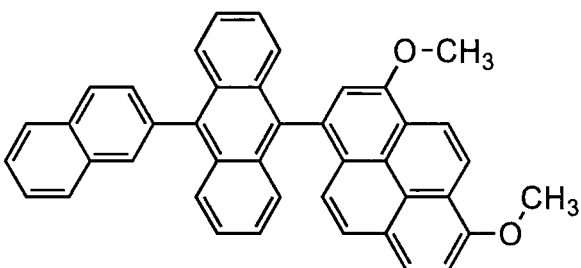
20

68



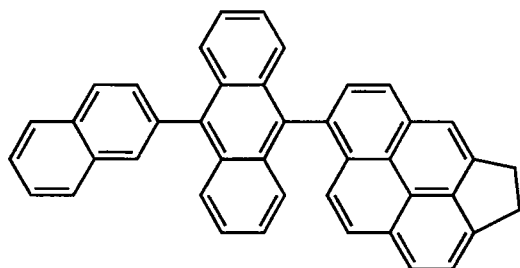
30

69



40

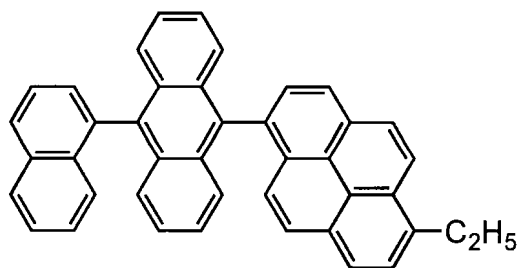
70



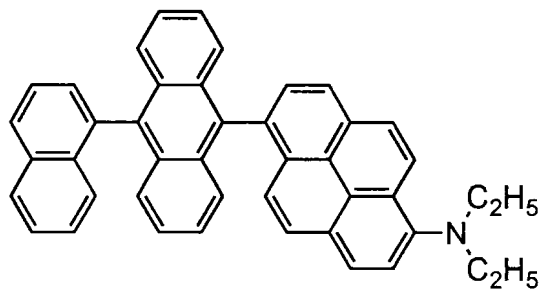
【 0 0 8 4 】

【化 2 6】

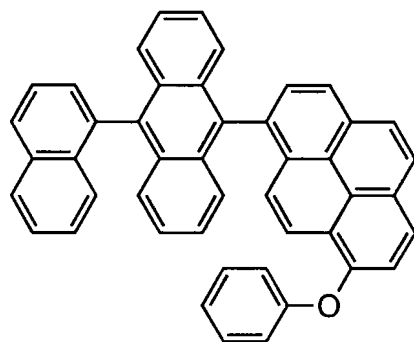
71



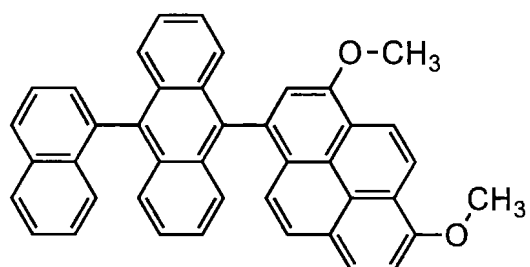
72



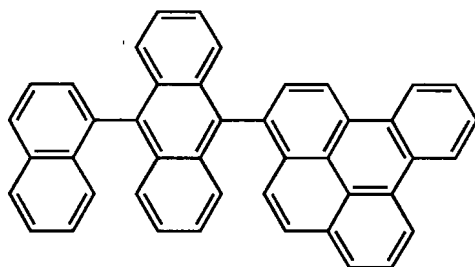
73



74



75



10

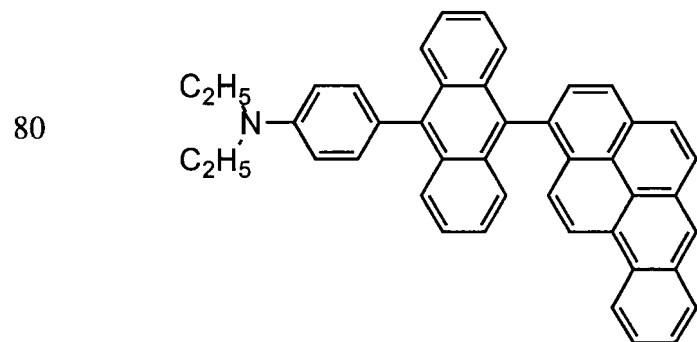
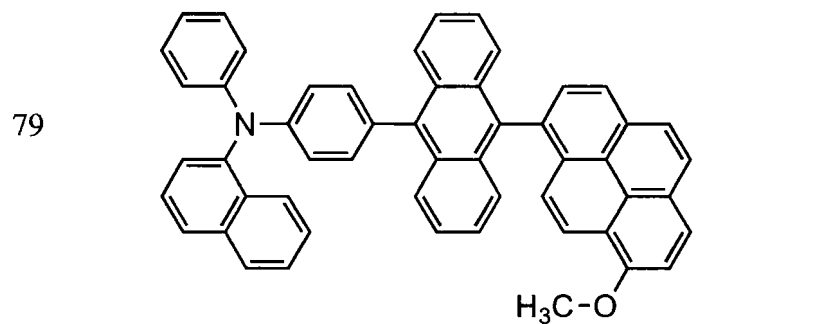
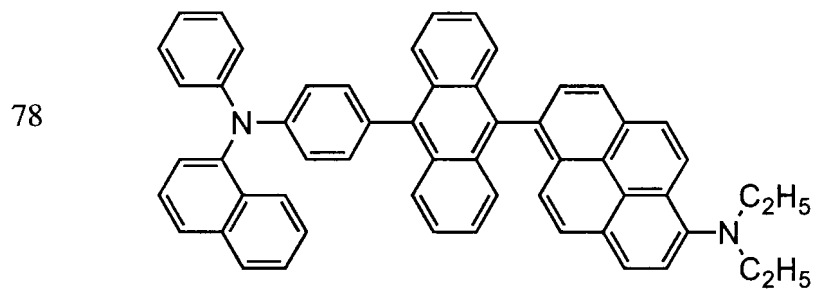
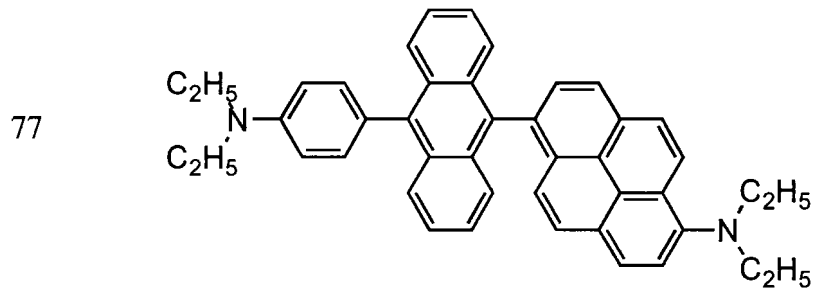
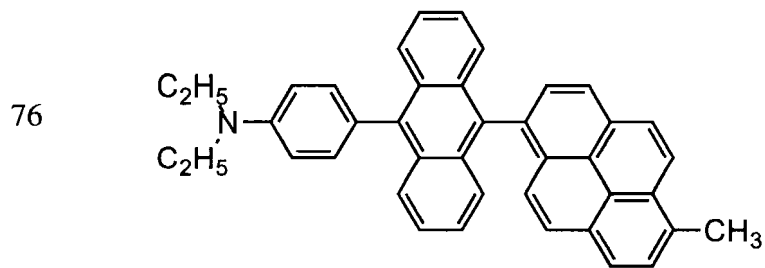
20

30

40

【 0 0 8 5 】

【化 2 7】



10

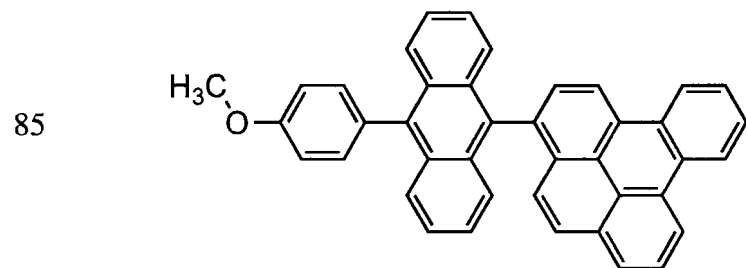
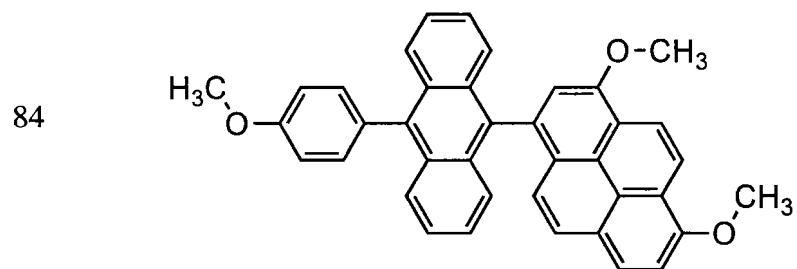
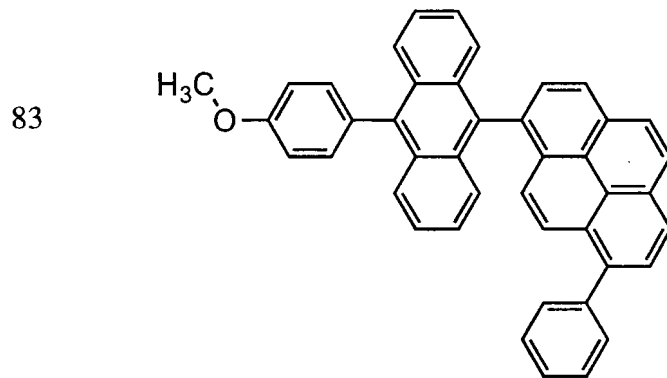
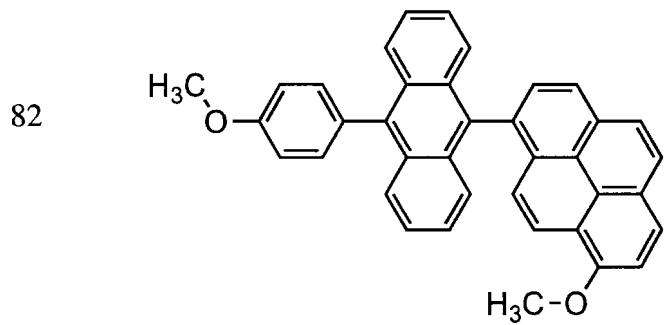
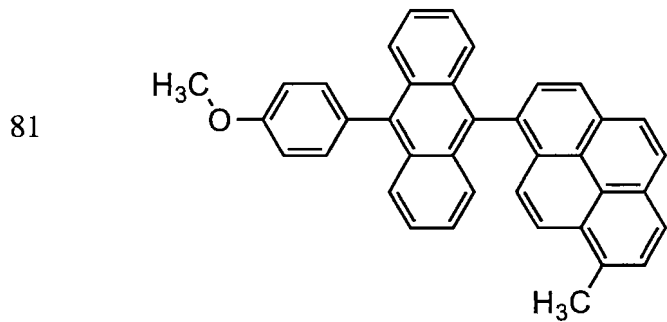
20

30

40

【 0 0 8 6 】

【化 2 8】



10

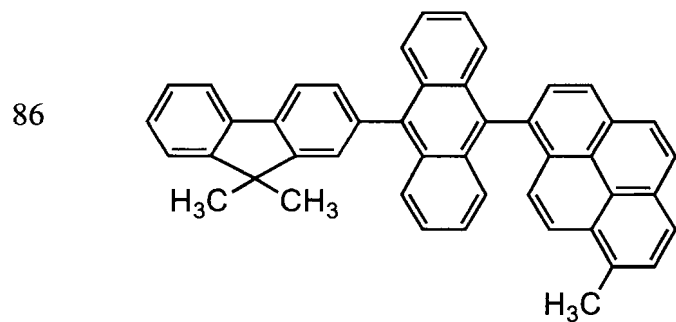
20

30

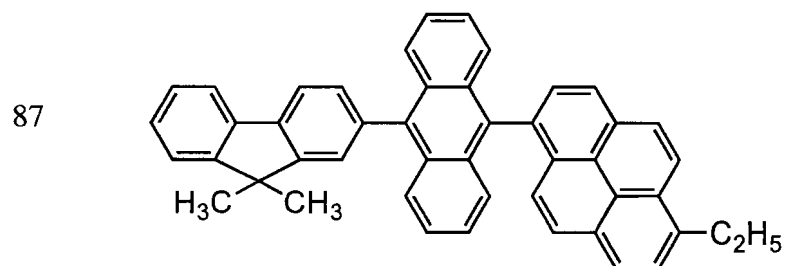
40

【 0 0 8 7 】

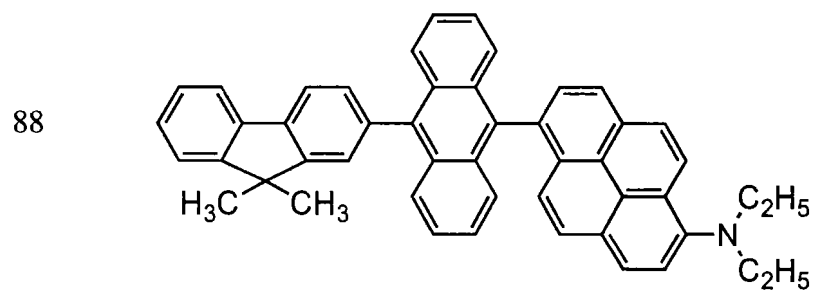
【化 2 9】



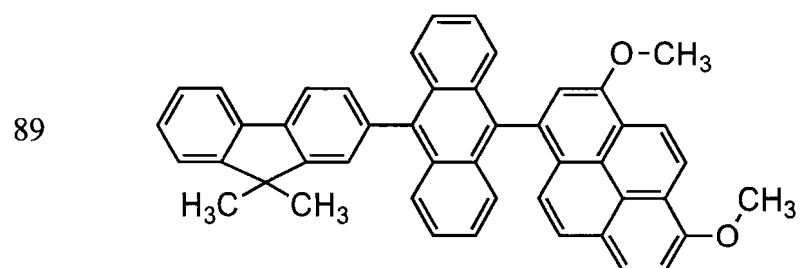
10



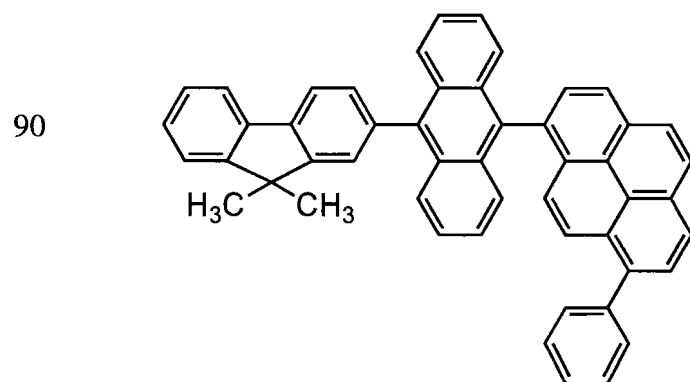
20



30



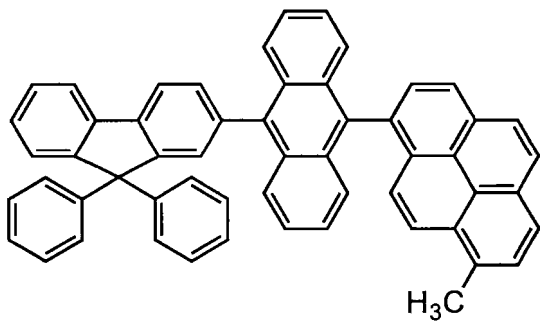
40



【 0 0 8 8 】

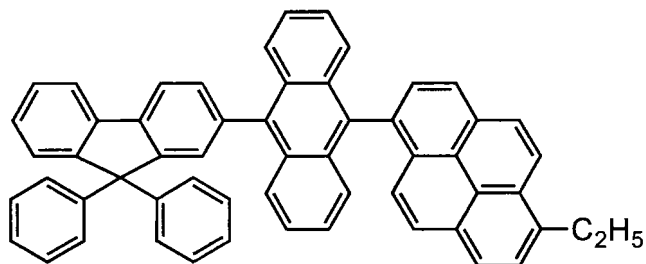
【化 3 0】

91



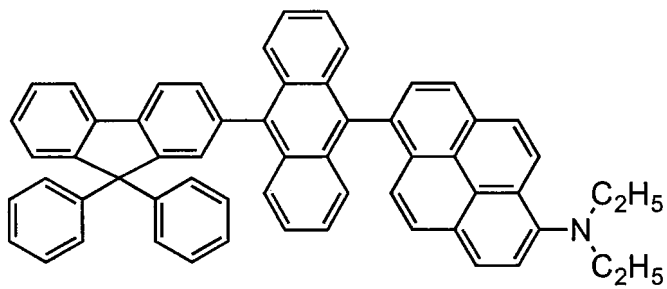
10

92



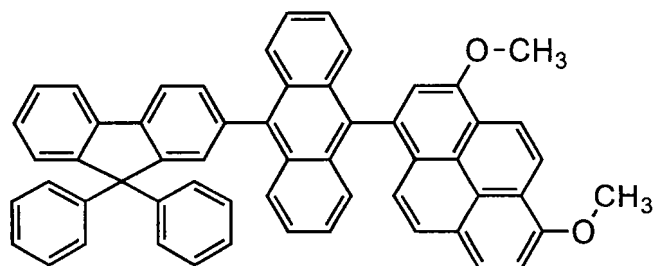
20

93



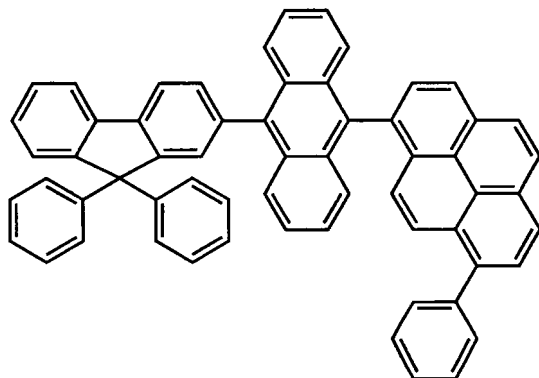
30

94



40

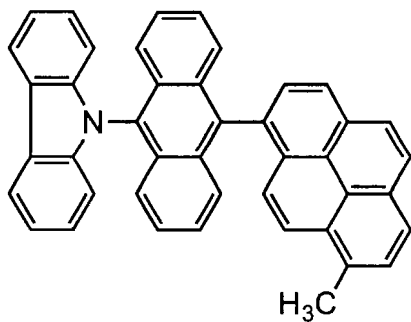
95



【 0 0 8 9】

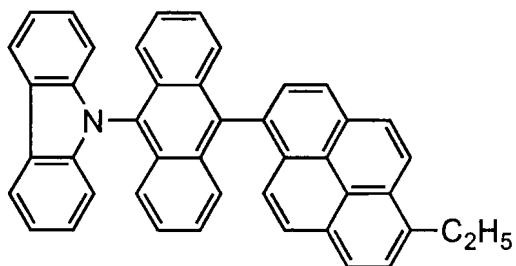
【化 3 1】

96



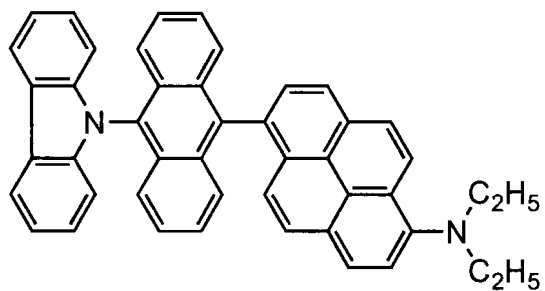
10

97



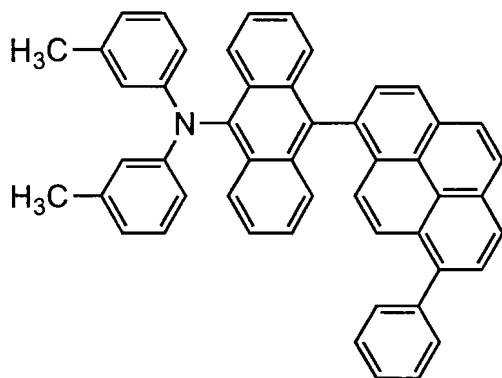
20

98



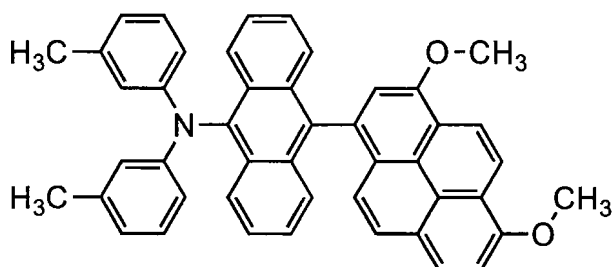
30

99



40

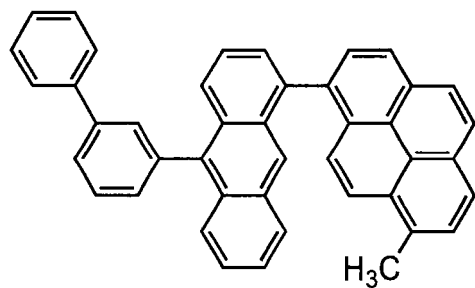
100



【 0 0 9 0 】

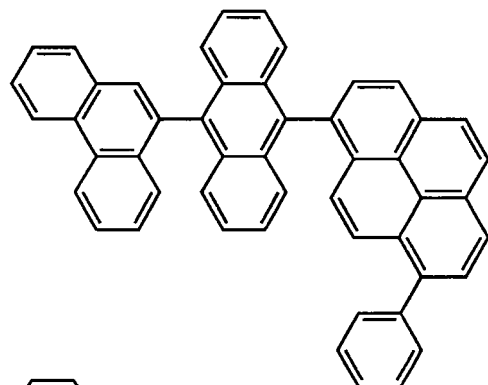
【化 3 2】

101



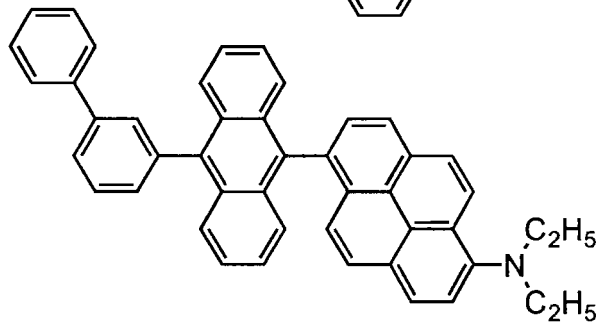
H<sub>3</sub>C

102



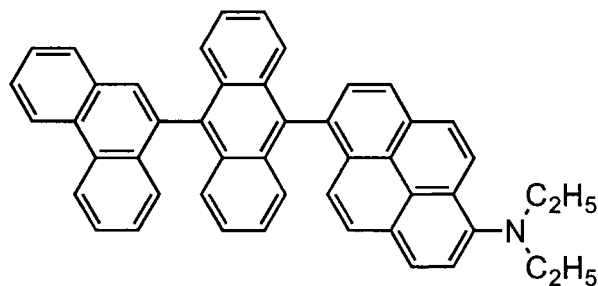
10

103



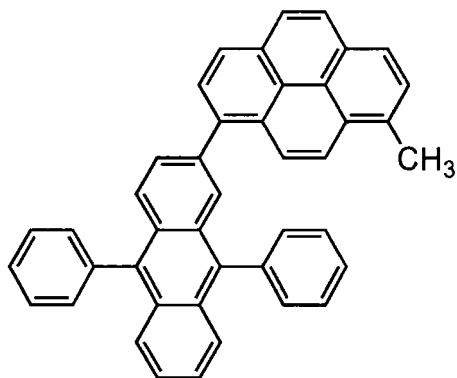
20

104



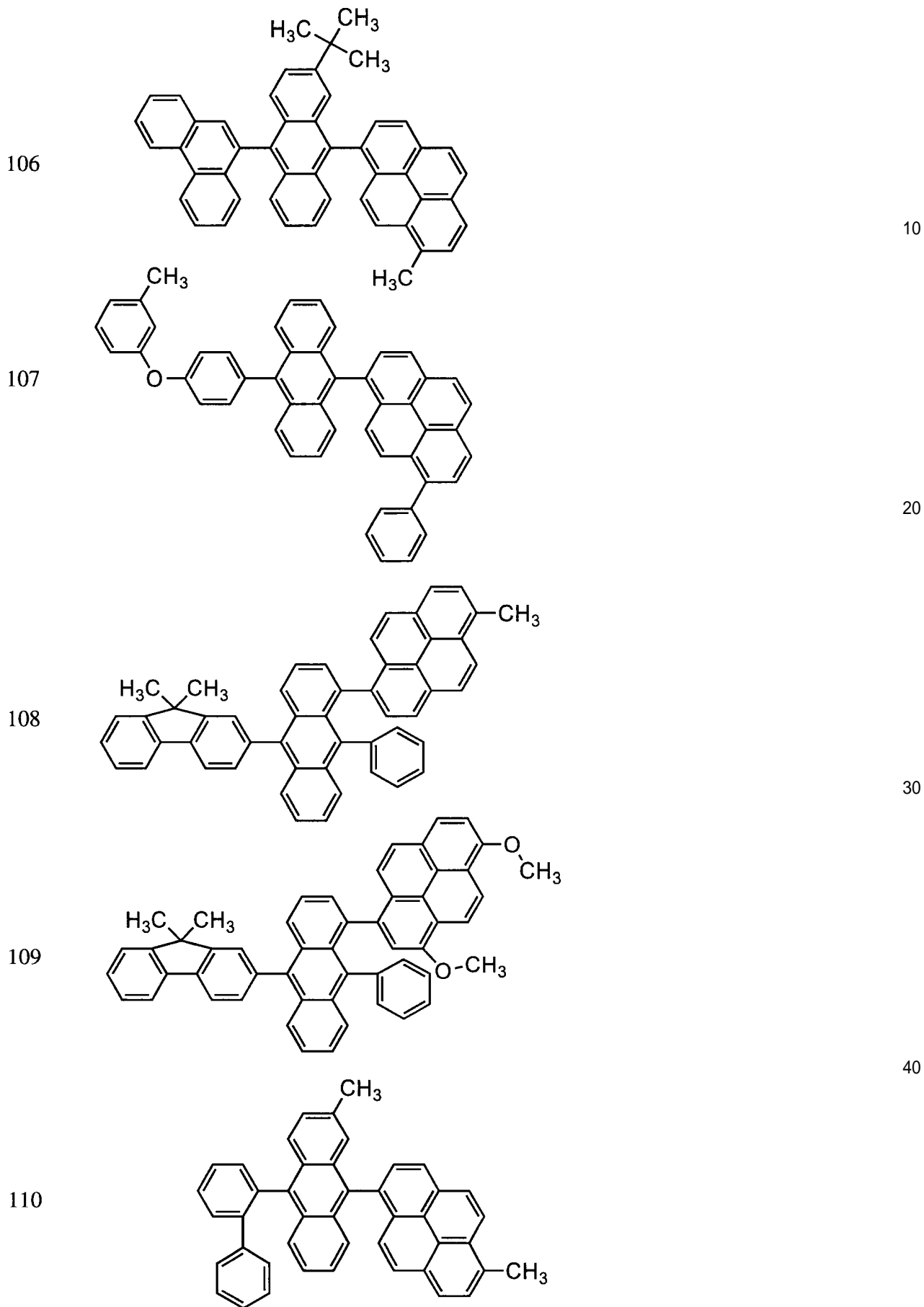
30

105



40

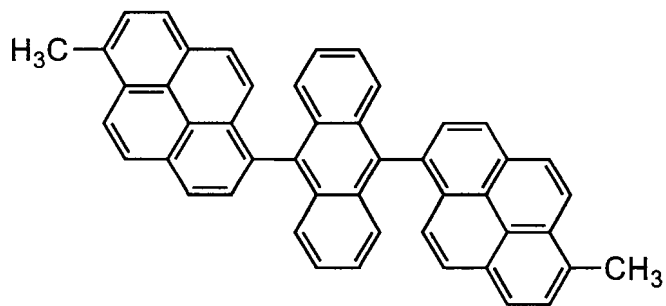
【化 3 3】



【 0 0 9 2 】

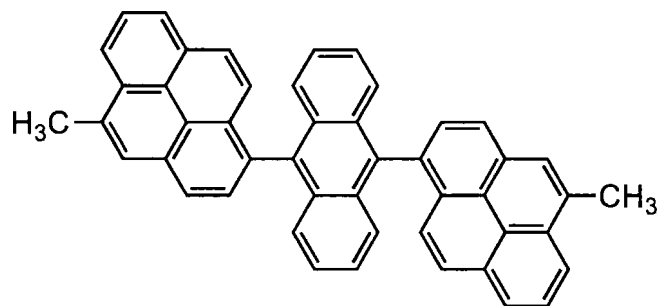
【化 3 4】

111



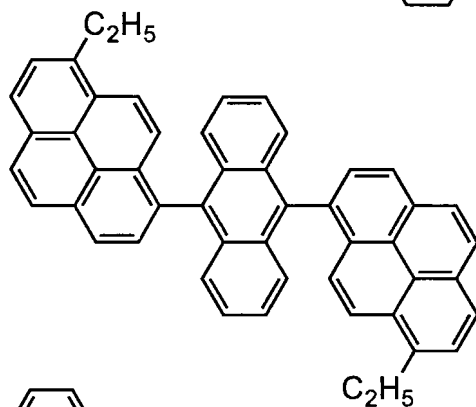
10

112



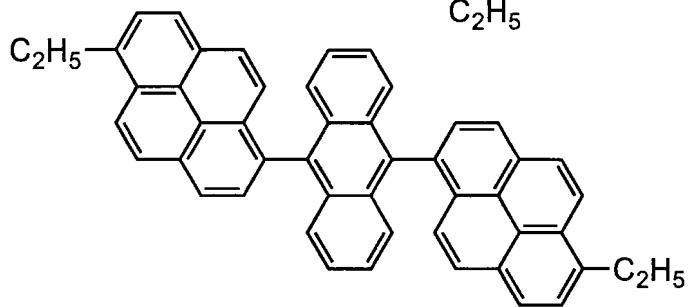
20

113



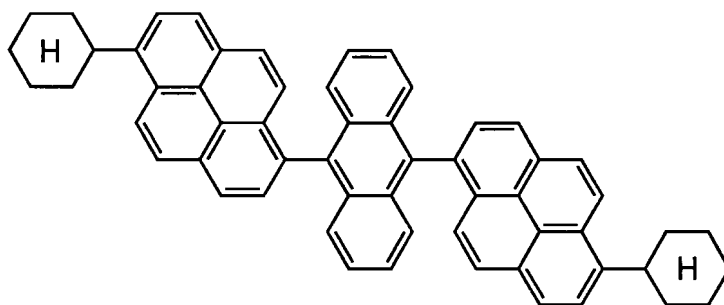
30

114



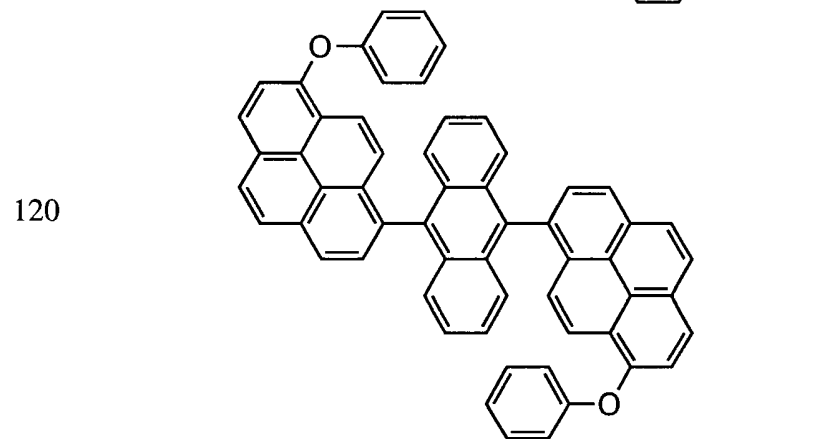
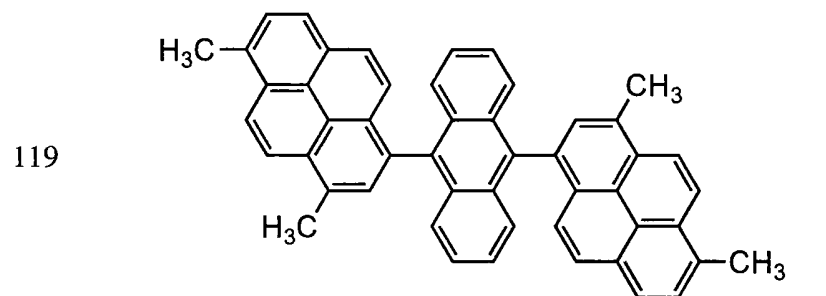
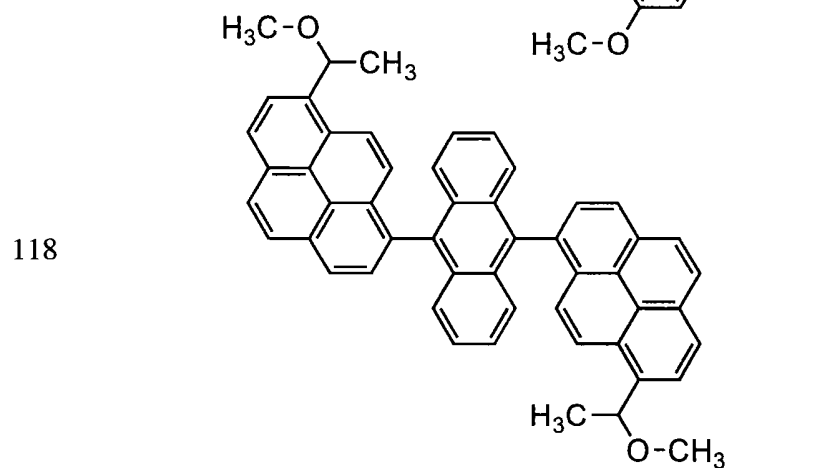
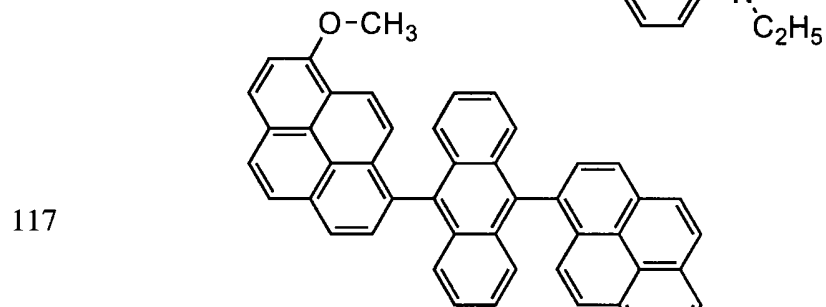
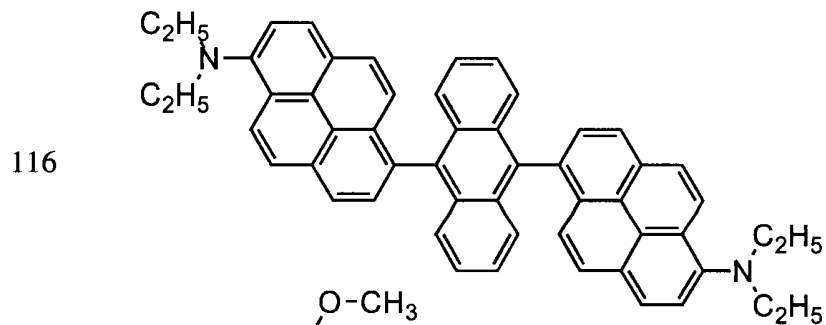
40

115



【 0 0 9 3 】

【化 3 5】



10

20

30

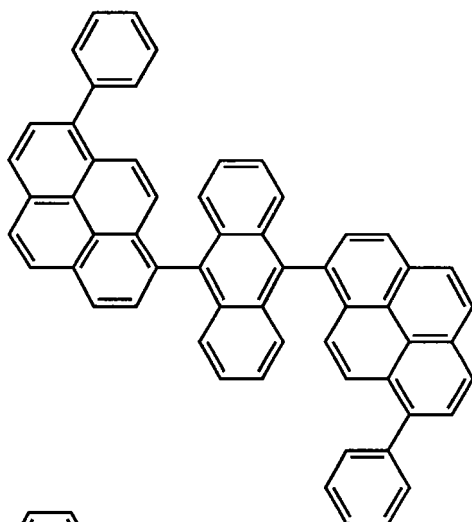
40

【 0 0 9 4 】

50

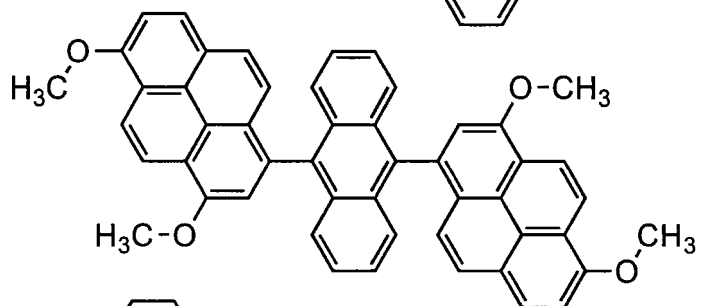
【化 3 6】

121



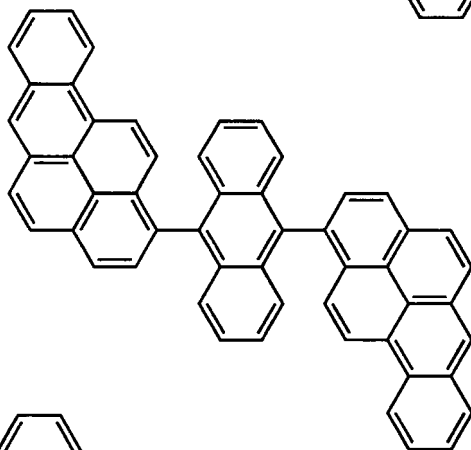
10

122



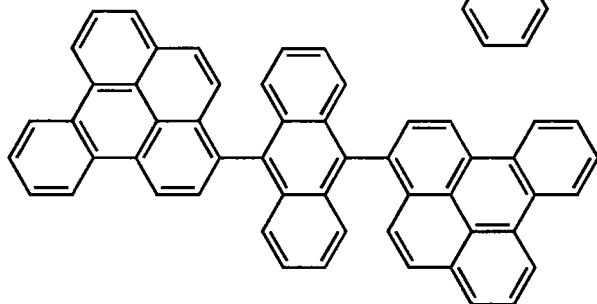
20

123



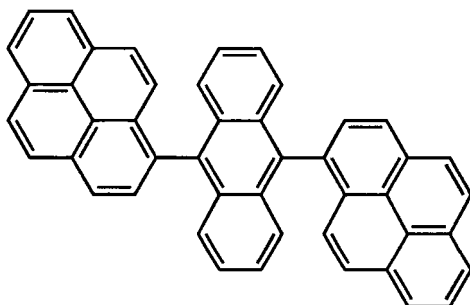
30

124



40

125

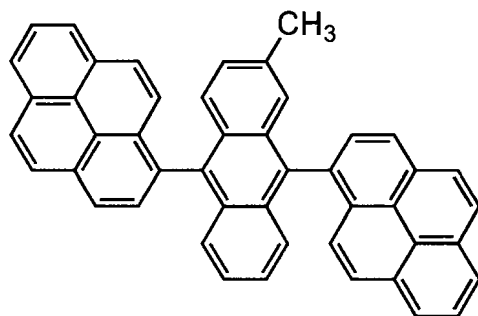


【 0 0 9 5 】

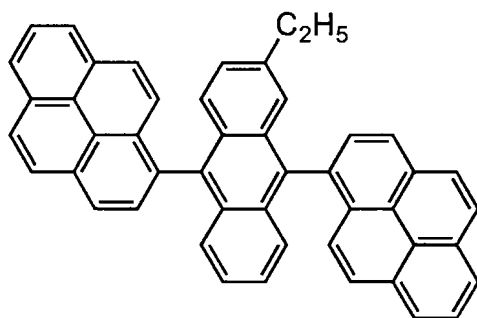
50

【化 3 7】

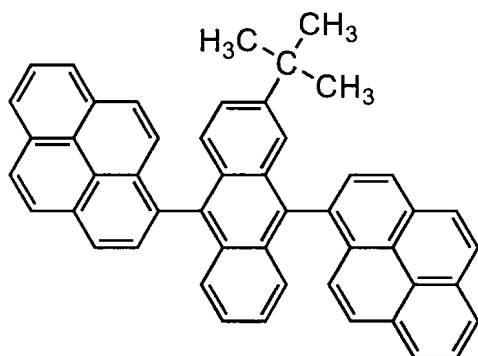
126



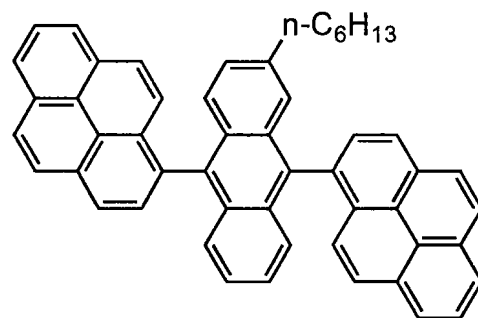
127



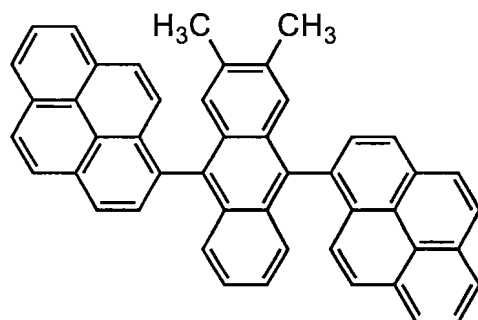
128



129



130



10

20

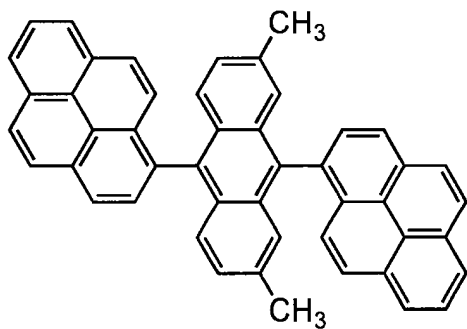
30

40

【 0 0 9 6 】

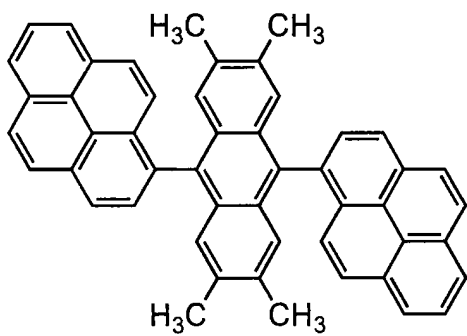
【化 3 8】

131



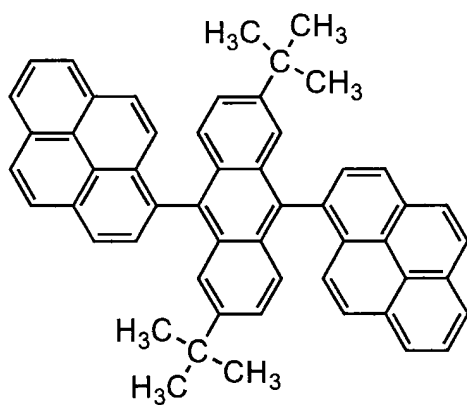
10

132



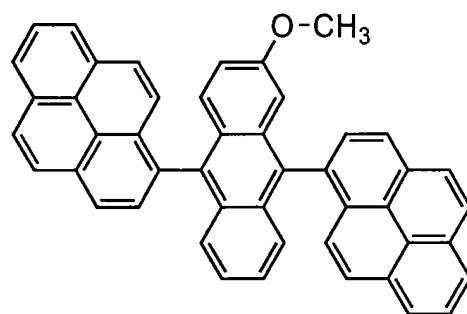
20

133



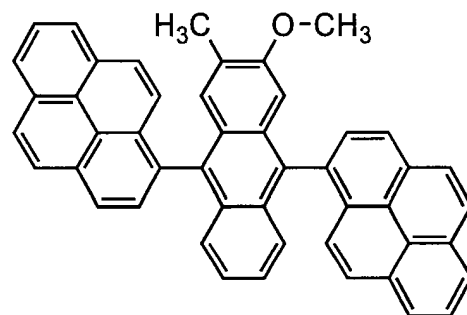
30

134



40

135

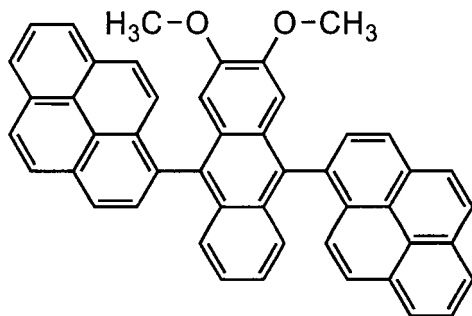


【 0 0 9 7 】

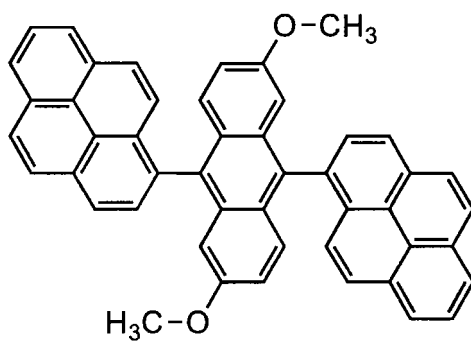
50

【化 3 9】

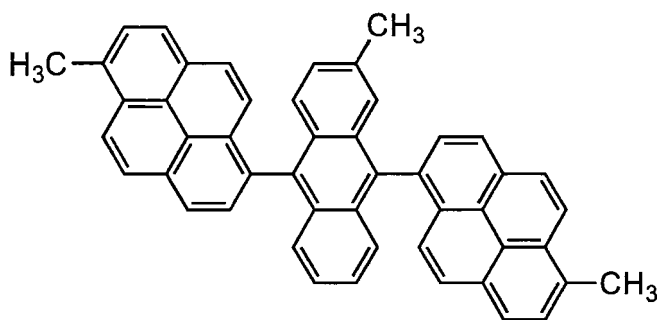
136



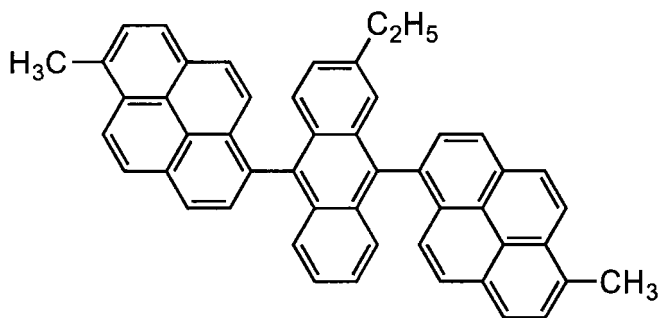
137



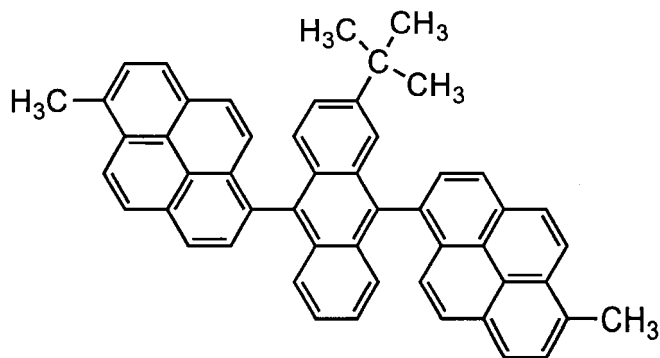
138



139



140



10

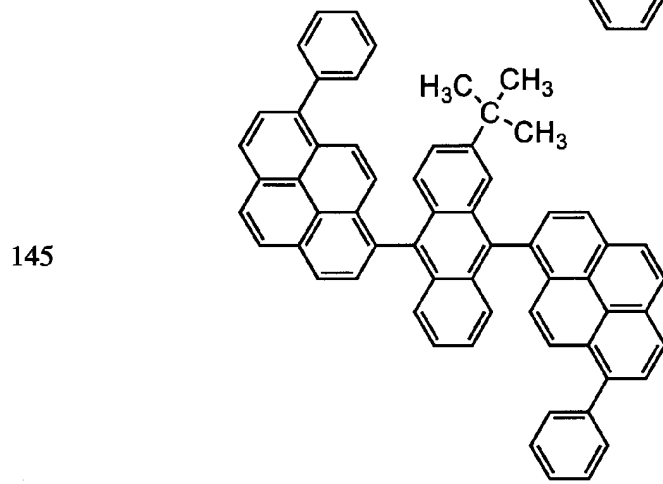
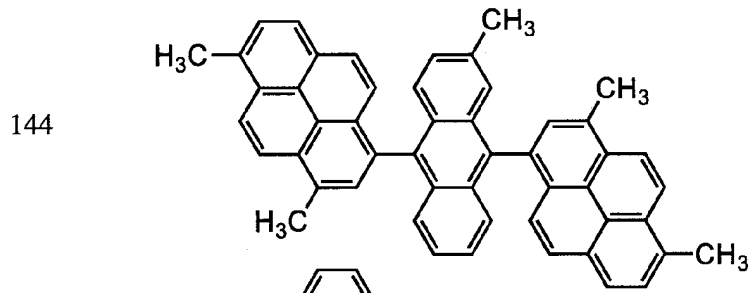
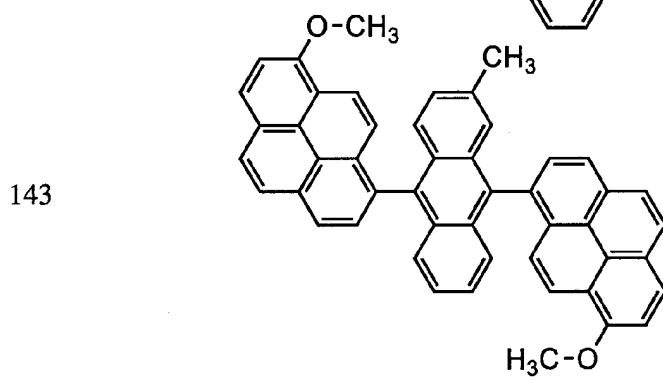
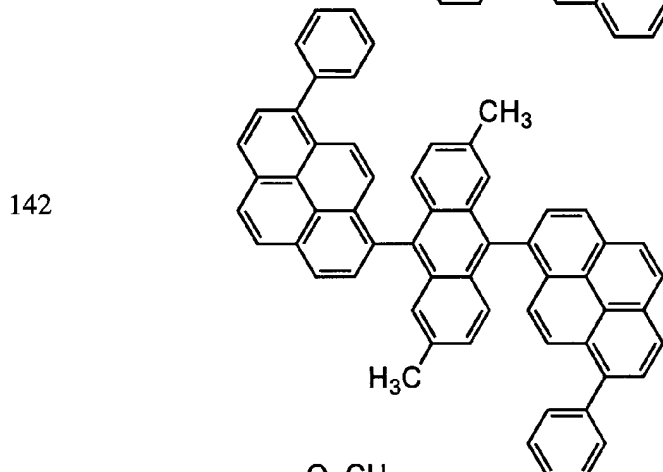
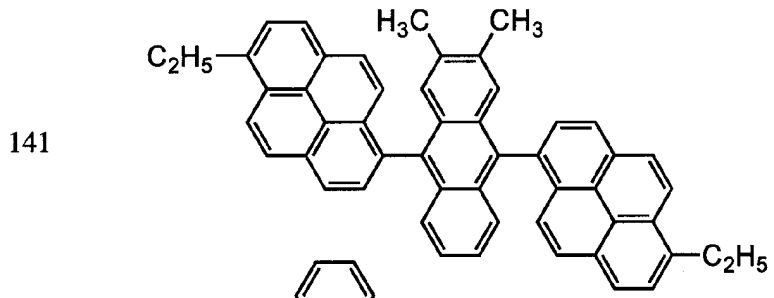
20

30

40

【 0 0 9 8 】

【化 4 0】



10

20

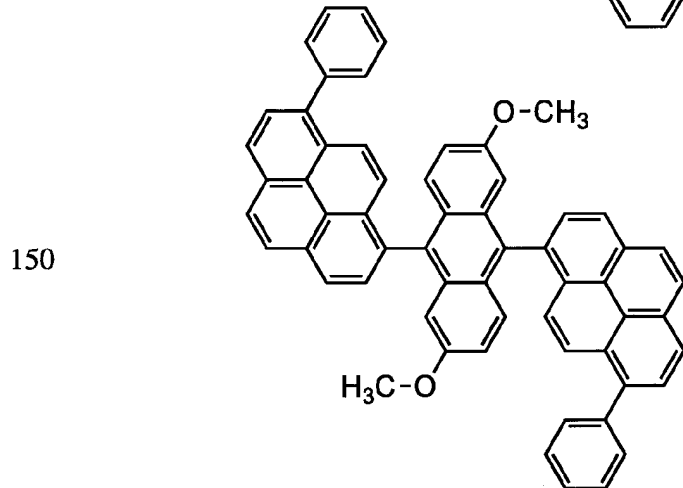
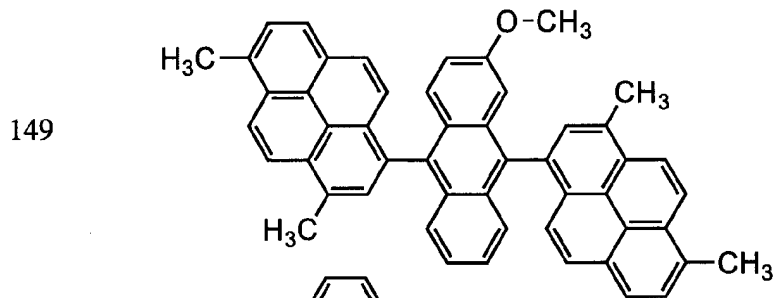
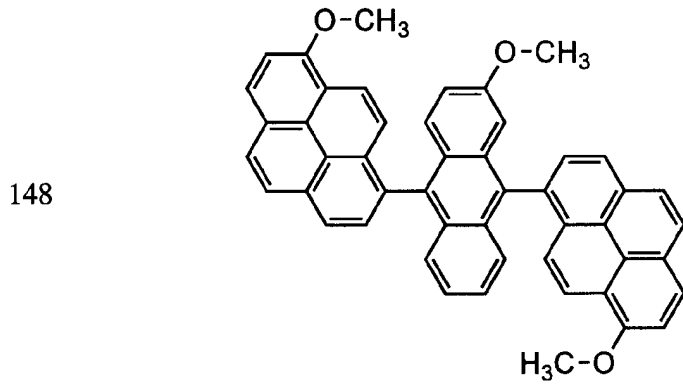
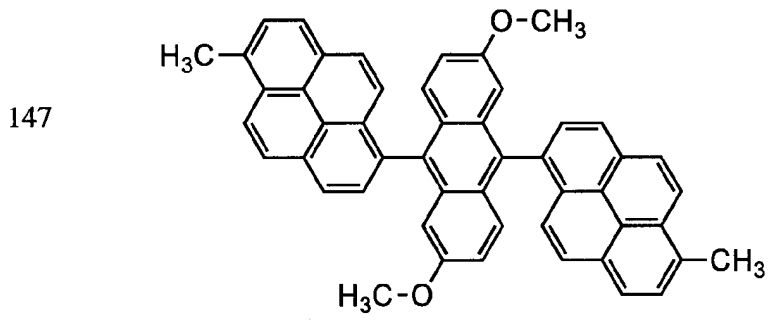
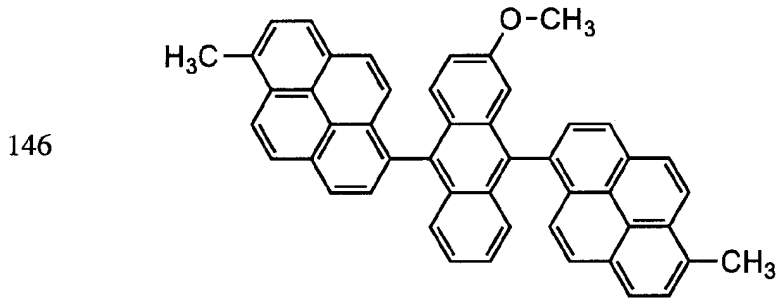
30

40

【 0 0 9 9 】

50

【化 4 1】



10

20

30

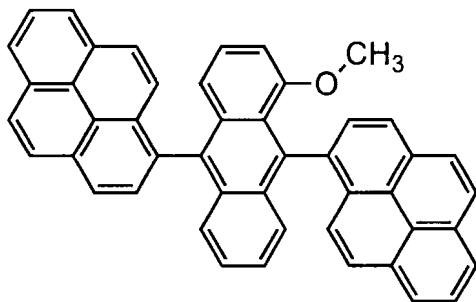
40

50

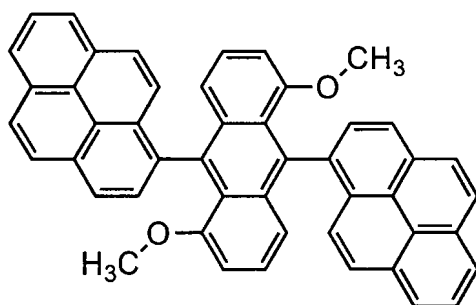
【 0 1 0 0 】

## 【化 4 2】

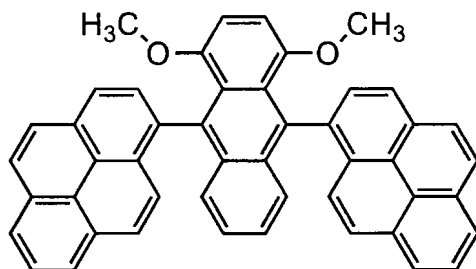
151



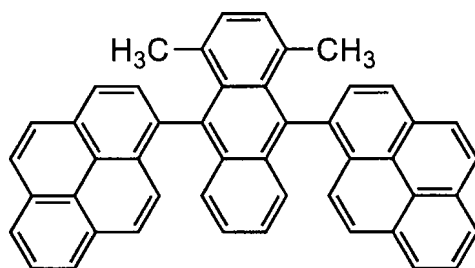
152



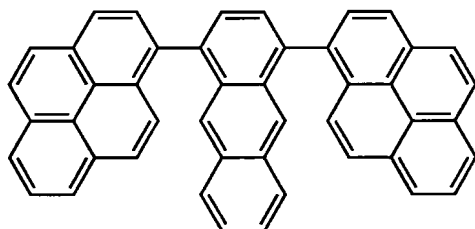
153



154



155



10

20

30

40

## 【0101】

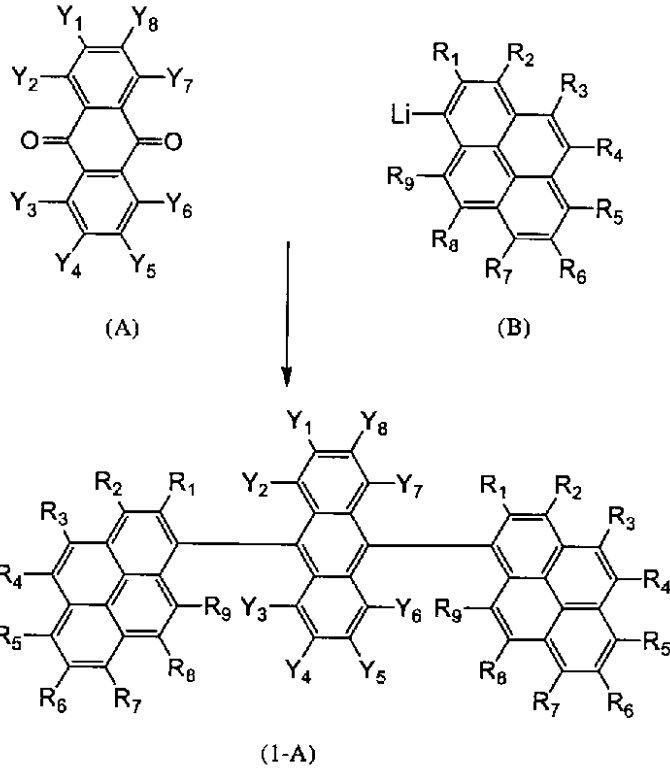
本発明の式(1)で表されるアントラセン化合物は、例えば、以下に示す工程により製造することができる。

[式(1)中、 $Y_9$  および  $Y_{10}$  が式(2)で表される基であるアントラセン化合物(1-A)の製造(化43)]

## 【0102】

50

## 【化 4 3】



10

20

## 【 0 1 0 3】

〔式中、 $Y_1 \sim Y_8$ 、 $R_1 \sim R_9$  は式 (1) および式 (2) と同様の原子または基を表す〕

式 (A) で表されるアントラキノン誘導体と、2 倍モルの式 (B) で表されるピレニルリチウム誘導体を反応させ、次いで次亜りん酸 / ヨウ化水素酸等で還元することにより、式 (1) 中、 $Y_9$  および  $Y_{10}$  が式 (2) で表される基であるアントラセン化合物 (1-A) を製造することができる。

## 【 0 1 0 4】

式 (B) で表されるピレニルリチウム誘導体は、例えば 1 - プロモピレン誘導体と  $n$  - ブチルリチウム等の有機リチウム反応剤との反応により製造することができる。

30

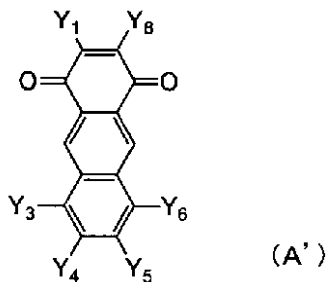
## 【 0 1 0 5】

[式 (1) 中、 $Y_2$  および  $Y_7$  が式 (2) で表される基であるアントラセン化合物の製造]

式 (A) で表されるアントラキノン誘導体を使用する代わりに、式 (A') (化 4 4) で表されるアントラキノン誘導体を使用する以外は、アントラセン化合物 (1-A) と同様にして製造することができる。

## 【 0 1 0 6】

## 【化 4 4】



40

## 【 0 1 0 7】

〔式中、 $Y_1$ 、 $Y_3 \sim Y_6$ 、 $Y_8$  は式 (1) と同様の原子または基を表す〕

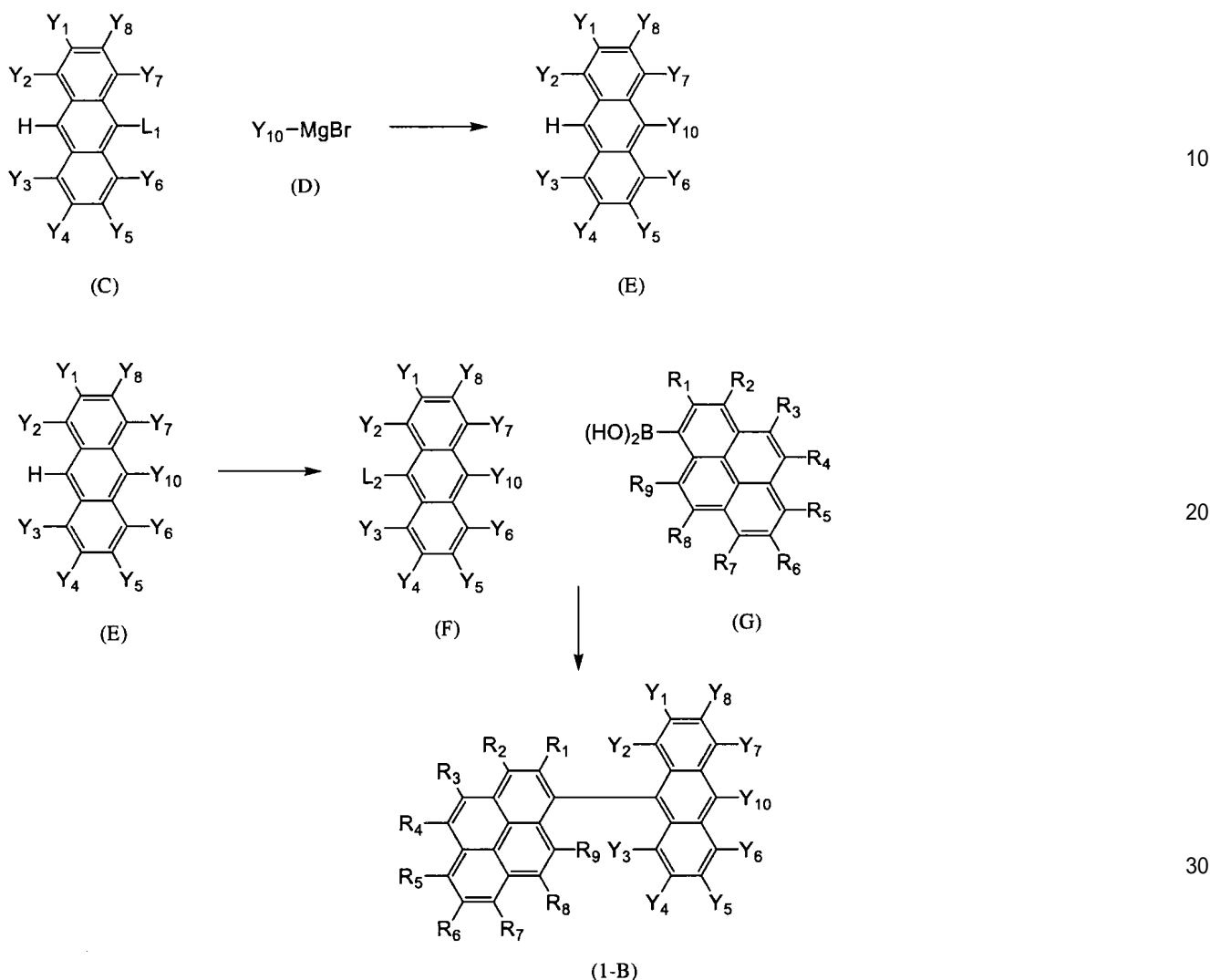
50

【 0 1 0 8 】

[式(1)中、 $Y_9$ が式(2)で表される基であり、 $Y_{10}$ がアルキル基、アラルキル基またはアリール基であるアントラセン化合物(1-B)の製造(化45)]

【 0 1 0 9 】

【化45】



10

20

30

【 0 1 1 0 】

[式中、 $Y_1 \sim Y_8$ 、 $R_1 \sim R_9$ は式(1)と同様の原子または基を表し、 $Y_{10}$ はアルキル基、アラルキル基またはアリール基を表し、 $L_1$ および $L_2$ はハロゲン原子等の脱離基を表す]

式(C)で表されるアントラセン化合物と式(D)で表されるグリニャール反応剤を鉄触媒(例えば、トリス(アセチルアセトナト)鉄等)またはニッケル触媒(例えば、[1,3-ビス(ジフェニルホスフィノ)プロパン]ニッケルジクロリド等)の存在下に反応させることにより、式(E)で表される化合物を製造した後、ハロゲン化剤(例えば、N-プロモスクシンイミド、N-ヨードスクシンイミド)によりハロゲン化を行い式(F)で表されるアントラセン誘導体を製造する。さらに、式(F)で表されるアントラセン誘導体と式(G)で表されるボロン酸誘導体をパラジウム触媒および塩基の存在下に反応させることにより、式(1)において、 $Y_9$ が式(2)で表される基であり、 $Y_{10}$ がアルキル基、アラルキル基またはアリール基であるアントラセン化合物(1-B)を製造することができる。

40

【 0 1 1 1 】

式(C)で表されるアントラセン化合物は、例えば、式(1)において、 $Y_9$ 、 $Y_{10}$

50

が水素原子である化合物と等モルのハロゲン化剤（例えば、N - プロモスクシンイミド、N - ヨードスクシンイミド）との反応により製造することができる。

【0112】

式（G）で表されるボロン酸誘導体は、式（B）で表されるピレニルリチウム誘導体とほう酸トリメチルを反応させ、塩酸、硫酸等の無機酸で加水分解することにより製造することができる。

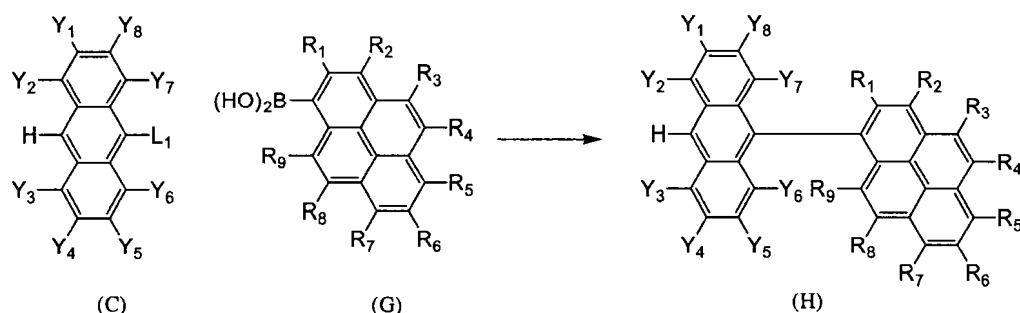
【0113】

〔式（1）において、 $Y_{10}$  が式（2）で表される基であり、 $Y_9$  がアミノ基、アルコキシ基、アラルキルオキシ基またはアリールオキシ基であるアントラセン化合物（1 - B'）の製造（化46）〕

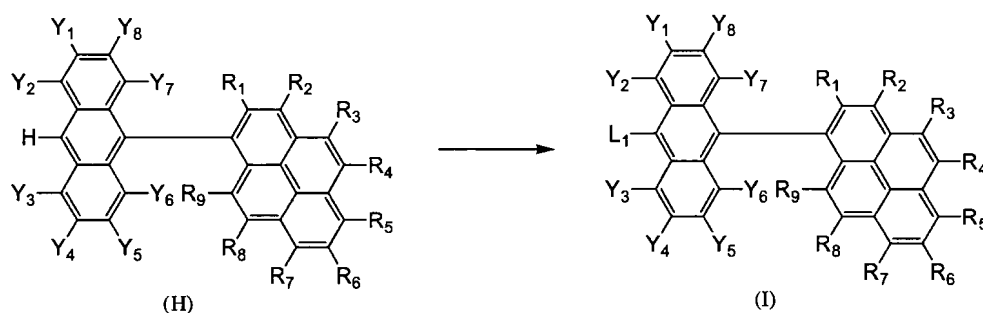
10

【0114】

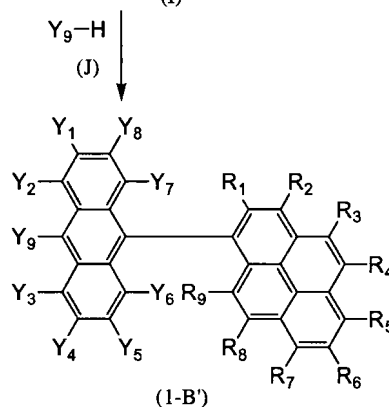
〔化46〕



20



30



40

【0115】

〔式中、 $Y_1 \sim Y_8$ 、 $R_1 \sim R_9$  は式（1）と同様の原子または基を表し、 $Y_9$  はアミノ基、アルコキシ基、アラルキルオキシ基またはアリールオキシ基を表し、 $L_1$  はハロゲン原子等の脱離基を表す〕

式（C）で表されるアントラセン誘導体と式（G）で表されるボロン酸誘導体とを、パラジウム触媒〔例えば、テトラキス（トリフェニルホスフィン）パラジウム、酢酸パラジウム/トリ - tert-ブチルホスフィン〕および塩基（例えば、トリエチルアミン、ピリジン等の有機塩基、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等の無機塩基）の存在下に反応させ、式（H）で表されるアントラセン誘導体を製造し、その後、ハロゲン化剤（例えば、N - プロモスクシンイミド、N - ヨードスクシンイミド）によりハロゲン化を行い式（I）で表されるアントラセン誘導体を製造した後、式（J）で表される化合物（式中、 $Y_9$  はアミ

50

ノ基、アルコキシ基、アラルキルオキシ基またはアリールオキシ基を表す)を作用させることにより式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がアミノ基、アルコキシ基、アラルキルオキシ基またはアリールオキシ基であるアントラセン化合物(1-B')を製造することができる。なお、式(H)で表される化合物は、式(3)中、 $Y_9$ が水素原子である化合物に対応し、式(I)の $L_1$ がハロゲン原子の化合物は、式(3)中、 $Y_9$ がハロゲン原子である化合物に対応する。

## 【0116】

式(I)で表されるアントラセン誘導体と式(J)で表される化合物との反応は、[1]式(I)で表されるアントラセン誘導体と、式(J)で表される化合物とを銅触媒(例えば、銅粉末、塩化銅、臭化銅)の存在下、所望により極性溶媒(例えば、*o*-ジクロロベンゼン、スルホラン)を溶媒として反応させる方法、[2]式(I)で表されるアントラセン誘導体と、式(J)で表される化合物とを、パラジウム触媒(例えば、酢酸パラジウム/トリ-*tert*-ブチルホスフィン、酢酸パラジウム/トリフェニルホスフィン、トリス(ジベンジリデンアセトン)ジパラジウム/トリ-*tert*-ブチルホスフィン)および塩基(例えば、ナトリウム-*tert*-ブトキシド、カリウム-*tert*-ブトキシド、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム)の存在下に反応させる方法により実施することができる。

10

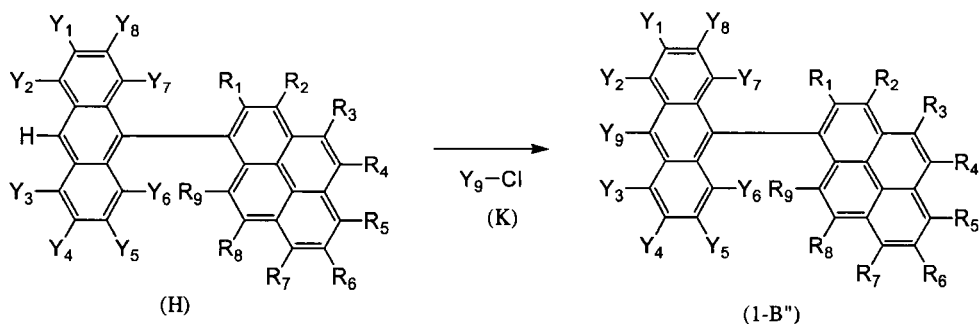
## 【0117】

[式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がエステル基またはアルキルカルボニル基であるアントラセン化合物(1-B'')の製造(化47)]

## 【0118】

20

## 【化47】



30

## 【0119】

[式中、 $Y_1 \sim Y_8$ 、 $R_1 \sim R_9$ は式(1)と同様の原子または基を表し、 $Y_9$ はエステル基またはアルキルカルボニル基を表す]

式(H)で表されるアントラセン誘導体と式(K)で表される化合物を、ルイス酸(例えば、塩化アルミニウム等)の存在下に反応させることにより式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がエステル基またはアルキルカルボニル基であるアントラセン化合物(1-B'')を製造することができる。

## 【0120】

[式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がニトロ基であるアントラセン化合物の製造]

40

式(H)で表されるアントラセン誘導体と硝酸を、硫酸の存在下に反応させることにより式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がニトロ基であるアントラセン化合物を製造することができる。

## 【0121】

[式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がシアノ基であるアントラセン化合物の製造]

式(I)で表されるアントラセン誘導体と金属シアノ化物(例えば、シアノ化銅(I)、シアノ化カリウム等)を反応させて式(I)中の $L_1$ をシアノ基に置換することにより、式(1)において、 $Y_{10}$ が式(2)で表される基であり、 $Y_9$ がシアノ基であるアントラセン化合物を製造することができる。

50



L - 5 ) 型素子、( E L - 6 ) 型素子または( E L - 7 ) 型素子であり、より好ましくは、( E L - 1 ) 型素子、( E L - 2 ) 型素子または( E L - 7 ) 型素子である。

【 0 1 2 9 】

以下、本発明の有機電界発光素子の構成要素に関し、詳細に説明する。なお、例として( 図 1 ) に示す( E L - 1 ) 陽極 / 正孔注入輸送層 / 発光層 / 電子注入輸送層 / 陰極型素子を取り上げて説明する。

【 0 1 3 0 】

( 図 1 ) において、1 は基板、2 は陽極、3 は正孔注入輸送層、4 は発光層、5 は電子注入輸送層、6 は陰極、7 は電源を示す。

【 0 1 3 1 】

本発明の有機電界発光素子は基板 1 に支持されていることが好ましく、基板としては、特に限定されるものではないが、透明ないし半透明である基板が好ましく、材質としては、ソーダライムガラス、ポロシリケートガラス等のガラスおよびポリエステル、ポリカーボネート、ポリスルホン、ポリエーテルスルホン、ポリアクリレート、ポリメチルメタクリレート、ポリプロピレン、ポリエチレン等の透明性高分子が挙げられる。また、半透明プラスチックシート、石英、透明セラミックスあるいはこれらを組み合わせた複合シートからなる基板を使用することもできる。さらに、基板に、例えば、カラーフィルター膜、色変換膜、誘電体反射膜を組み合わせ、発光色をコントロールすることもできる。

【 0 1 3 2 】

陽極 2 としては、仕事関数の比較的大きい金属、合金または導電性化合物を電極材料として使用することが好ましい。陽極に使用する電極材料としては、例えば、金、白金、銀、銅、コバルト、ニッケル、パラジウム、バナジウム、タングステン、酸化インジウム(  $In_2O_3$  )、酸化錫(  $SnO_2$  )、酸化亜鉛、ITO ( インジウム・チン・オキサイド : Indium Tin Oxide )、ポリチオフェン、ポリピロールなどを挙げることができる。これらの電極材料は単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。陽極は、これらの電極材料を、例えば、蒸着法、スパッタリング法等の方法により、基板の上に形成することができる。また、陽極は一層構造であってもよく、あるいは多層構造であってもよい。陽極のシート電気抵抗は、好ましくは、数百以下、より好ましくは、5 ~ 50 程度に設定する。陽極の厚みは使用する電極材料の材質にもよるが、一般に、5 ~ 1000 nm 程度、より好ましくは、10 ~ 500 nm 程度に設定する。

正孔注入輸送層 3 は、陽極からの正孔( ホール ) の注入を容易にする機能、および注入された正孔を輸送する機能を有する化合物を含有する層である。正孔注入輸送層は、式( 1 ) で表されるアントラセン化合物、または他の正孔注入輸送機能を有する化合物( 例えば、フタロシアニン誘導体、トリアリールアミン誘導体、トリアリールメタン誘導体、オキサゾール誘導体、ヒドラゾン誘導体、スチルベン誘導体、ピラゾリン誘導体、ポリシラン誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリ - N - ビニルカルバゾールなど ) を少なくとも 1 種使用して形成することができる。正孔注入輸送機能を有する化合物は、単独で使用してもよく、または複数併用してもよい。

【 0 1 3 3 】

本発明の有機電界発光素子は、好ましくは、正孔注入輸送層に式( 1 ) で表されるアントラセン化合物を含有する。本発明の有機電界発光素子において使用することができる本発明の式( 1 ) で表されるアントラセン化合物以外の正孔注入輸送機能を有する化合物としては、トリアリールアミン誘導体( 例えば、4, 4' - ビス[ N - フェニル - N - ( 4 - メチルフェニル ) アミノ ] ビフェニル、4, 4' - ビス[ N - フェニル - N - ( 3 - メチルフェニル ) アミノ ] ビフェニル、4, 4' - ビス[ N - フェニル - N - ( 3 - メトキシフェニル ) アミノ ] ビフェニル、4, 4' - ビス[ N - フェニル - N - ( 1 - ナフチル ) アミノ ] ビフェニル、3, 3' - ジメチル - 4, 4' - ビス[ N - フェニル - N - ( 3 - メチルフェニル ) アミノ ] ビフェニル、4, 4' - ビス[ 2 - ( 4 - N, N - ジフェニルアミノフェニル ) ビニル ] ビフェニル、1, 1' - ビス[ 4 - [ N, N - ジ( 4 - メチル

10

20

30

40

50

フェニル)アミノ]フェニル]シクロヘキサン、9,10-ビス[N-(4-メチルフェニル)-N-(4-n-ブチルフェニル)アミノ]フェナントレン、3,8-ビス(N,N-ジフェニルアミノ)-6-フェニルフェナントリジン、4-メチル-N,N-ビス[4'-N,N-ジ(4-メチルフェニル)アミノ]ピフェニル-4-イル]アニリン、N,N'-ビス[4-(ジフェニルアミノ)フェニル]-N,N'-ジフェニル-1,3-ジアミノベンゼン、N,N'-ビス[4-(ジフェニルアミノ)フェニル]-N,N'-ジフェニル-1,4-ジアミノベンゼン、5,5"-ビス[4-(ビス[4-メチルフェニル]アミノ)フェニル]-2,2':5',2"-ターチオフェン、1,3,5-トリス(ジフェニルアミノ)ベンゼン、4,4',4"-トリス(N-カルバゾリル)トリフェニルアミン、4,4',4"-トリス[N,N-ビス(4'-tert-ブチルピフェニル-4-イル)アミノ]トリフェニルアミン、1,3,5-トリス(4-ジフェニルアミノ)フェニルベンゼンなど、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリ-N-ビニルカルバゾールおよびその誘導体がより好ましい。

#### 【0134】

式(1)で表されるアントラセン化合物と他の正孔注入機能を有する化合物を併用する場合、正孔注入輸送層中に占める式(1)で表されるアントラセン化合物の含有量は、好ましくは、0.1質量%以上、より好ましくは、0.5~99.9質量%、さらに好ましくは3~97質量%である。

発光層4は、正孔および電子の注入機能、それらの輸送機能、正孔と電子の再結合により励起子を生成させる機能を有する化合物を含有する層である。発光層は、式(1)で表されるアントラセン化合物を宿主材料として、式(1)で表されるアントラセン化合物以外の発光機能を有する化合物を少なくとも1種ゲスト材料として使用して形成することができ、また、式(1)で表されるアントラセン化合物以外の発光機能を有する化合物を少なくとも1種宿主材料として、式(1)で表されるアントラセン化合物をゲスト材料として使用して形成することもできる。

#### 【0135】

式(1)で表されるアントラセン化合物以外の発光機能を有する化合物(ゲスト材料・宿主材料)としては、例えば、アクリドン誘導体、キナクリドン誘導体、ジケトピロロピロール誘導体、多環芳香族化合物〔例えば、ルブレン、アントラセン、テトラセン、ピレン、ペリレン、クリセン、デカサイクレン、コロネン、テトラフェニルシクロペンタジエン、ペンタフェニルシクロペンタジエン、9,10-ジフェニルアントラセン、9,10-ビス(フェニルエチニル)アントラセン、1,4-ビス(9-エチニルアントラセニル)ベンゼン、4,4'-ビス(9-エチニルアントラセニル)ピフェニル、ジベンゾ[f,f']ジインデノ[1,2,3-cd:1',2',3'-lm]ペリレン誘導体〕、トリアリールアミン誘導体(例えば、正孔注入輸送機能を有する化合物として前述した化合物を挙げることができる)、有機金属錯体〔例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(10-ベンゾ[h]キノリノラート)ベリリウム、2-(2-ヒドロキシフェニル)ベンゾチアゾールの亜鉛塩、4-ヒドロキシアクリジンの亜鉛塩、3-ヒドロキシフラボンの亜鉛塩、5-ヒドロキシフラボンのベリリウム塩、5-ヒドロキシフラボンのアルミニウム塩〕、スチルベン誘導体〔例えば、1,1,4,4-テトラフェニル-1,3-ブタジエン、4,4'-ビス(2,2-ジフェニルビニル)ピフェニル、4,4'-ビス[(1,1,2-トリフェニル)エテニル]ピフェニル〕、クマリン誘導体(例えば、クマリン1、クマリン6、クマリン7、クマリン30、クマリン106、クマリン138、クマリン151、クマリン152、クマリン153、クマリン307、クマリン311、クマリン314、クマリン334、クマリン338、クマリン343、クマリン500)、ピラン誘導体(例えば、DCM1、DCM2)、オキサゾン誘導体(例えば、ナイルレッド)、ベンゾチアゾール誘導体、ベンゾオキサゾール誘導体、ベンゾイミダゾール誘導体、ピラジン誘導体、ケイ皮酸エステル誘導体、ポリ-N-ビニルカルバゾールおよびその誘導体、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリフェニレンおよびその誘導体、ポリフルオレンおよびその誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリピフェニレンビニレン

およびその誘導体、ポリターフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリナフチレンビニレンおよびその誘導体、ポリチエニレンビニレンおよびその誘導体等を挙げることができる。

式(1)で表されるアントラセン化合物以外の発光機能を有する化合物(ゲスト材料・ホスト材料)としては、アクリドン誘導体、キナクリドン誘導体、多環芳香族化合物、トリアリールアミン誘導体、有機金属錯体およびスチルベン誘導体が好ましく、多環芳香族化合物、有機金属錯体がより好ましい。

本発明の有機電界発光素子は、好ましくは、発光層に式(1)で表されるアントラセン化合物をホスト材料として含有する。式(1)で表されるアントラセン化合物をホスト材料として、他の発光機能を有する化合物(ゲスト材料)と併用する場合、発光層中に占める式(1)で表されるアントラセン化合物の含有率は、好ましくは、99.9~80質量%であり、より好ましくは、99~90質量%である。

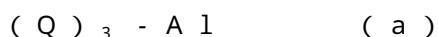
ホスト材料は、単独で使用してもよく、複数併用してもよい。また、ゲスト材料は単独で使用してもよく、複数併用してもよい。

#### 【0136】

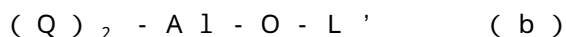
ホスト材料を複数併用する場合、本発明の式(1)で表されるアントラセン化合物のホスト材料全体に占める割合は、好ましくは、99~10質量%であり、より好ましくは90~20質量%である。

電子注入輸送層5は、陰極からの電子の注入を容易にする機能および/または注入された電子を輸送する機能を有する化合物を含有する層である。電子注入輸送層に使用される電子注入機能を有する化合物としては、例えば、有機金属錯体、オキサジアゾール誘導体、トリアゾール誘導体、トリアジン誘導体、ペリレン誘導体、キノリン誘導体、キノキサリン誘導体、ジフェニルキノン誘導体、ニトロ置換フルオレノン誘導体、チオピランジオキサイド誘導体などを挙げることができる。また、有機金属錯体としては、例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム等の有機アルミニウム錯体、ビス(10-ベンゾ[h]キノリノラート)ベリリウム等の有機ベリリウム錯体、5-ヒドロキシフラボンのベリリウム塩、5-ヒドロキシフラボンのアルミニウム塩等を挙げることができる。好ましくは、有機アルミニウム錯体であり、より好ましくは、8-キノリノラート配位子を有する有機アルミニウム錯体である。8-キノリノラート配位子を有する有機アルミニウム錯体としては、例えば、式(a)~式(c)で表される化合物を挙げることができる。

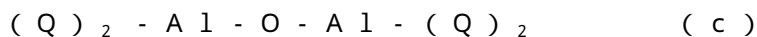
#### 【0137】



(式中、Qは8-キノリノラート配位子を表す)



(式中、Qは8-キノリノラート配位子を表し、O-L'はアリールオキシ配位子を表し、L'は炭素数6~24のアリール基を表す)



(式中、Qは8-キノリノラート配位子を表す)

8-キノリノラート配位子を有する有機アルミニウム錯体の具体例としては、例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(5-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(3,4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4,5-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4,6-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、

#### 【0138】

ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(フェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(4-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-

8 - キノリノラート) (3 - フェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (4 - フェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 3 - ジメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 6 - ジメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (3, 4 - ジメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (3, 5 - ジメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (3, 5 - ジ - tert - ブチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 6 - ジフェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 4, 6 - トリフェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 4, 6 - トリメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2, 4, 5, 6 - テトラメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (1 - ナフトラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) (2 - ナフトラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) (2 - フェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) (3 - フェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) (4 - フェニルフェノラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) (3, 5 - ジメチルフェノラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) (3, 5 - ジ - tert - ブチルフェノラート) アルミニウム、

10

20

## 【0139】

ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2 - メチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム、ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2, 4 - ジメチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 4 - エチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2 - メチル - 4 - エチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 4 - メトキシ - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2 - メチル - 4 - メトキシ - 8 - キノリノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 5 - シアノ - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2 - メチル - 5 - シアノ - 8 - キノリノラート) アルミニウム、ビス(2 - メチル - 5 - トリフルオロメチル - 8 - キノリノラート) アルミニウム -  $\mu$  - オキソ - ビス(2 - メチル - 5 - トリフルオロメチル - 8 - キノリノラート) アルミニウムを挙げることができる。ここで、前記 L' のアリール基は炭素環式芳香族基を表す。

30

電子注入機能を有する化合物は単独で使用してもよく、また複数併用してもよい。

## 【0140】

陰極6としては、比較的仕事関数の小さい金属、合金または導電性化合物を電極材料として使用することが好ましい。陰極に使用する電極材料としては、例えば、リチウム、リチウム - インジウム合金、ナトリウム、ナトリウム - カリウム合金、カルシウム、マグネシウム、マグネシウム - 銀合金、マグネシウム - インジウム合金、インジウム、ルテニウム、チタニウム、マンガン、イットリウム、アルミニウム、アルミニウム - リチウム合金、アルミニウム - カルシウム合金、アルミニウム - マグネシウム合金、グラファイト薄を挙げることができる。これらの電極材料は単独で使用してもよく、また複数併用してもよい。

40

## 【0141】

陰極はこれらの電極材料を、例えば、蒸着法、スパッタリング法、イオン蒸着法、イオンプレーティング法、クラスターイオンビーム法により電子注入輸送層の上に形成することができる。

また、陰極は一層構造であってもよく、多層構造であってもよい。陰極のシート電気抵抗は数百以下とするのが好ましい。陰極の厚みは、使用する電極材料にもよるが、通常5 ~ 1000 nm、好ましくは、10 ~ 500 nmとする。本発明の有機電界発光素子の発

50

光を高率よく取り出すために、陽極または陰極の少なくとも一方の電極は、透明ないし半透明であることが好ましく、一般に、発光光の透過率が70%以上となるように陽極または陰極の材料、厚みを設定することが好ましい。

また、本発明の有機電界発光素子は、正孔注入輸送層、発光層および電子注入輸送層の少なくとも一層中に、一重項酸素クエンチャーを含有していてもよい。一重項酸素クエンチャーとしては、特に限定されるものではないが、例えば、ルブレン、ニッケル錯体、ジフェニルイソベンゾフランが挙げられ、好ましくは、ルブレンである。一重項酸素クエンチャーが含有されている層としては、特に限定されるものではないが、好ましくは、発光層または正孔注入輸送層であり、より好ましくは、正孔注入輸送層である。尚、正孔注入輸送層に一重項酸素クエンチャーを含有させる場合、正孔注入輸送層中に均一に含有させてもよく、正孔注入輸送層と隣接する層（例えば、発光層、発光機能を有する電子注入輸送層）の近傍に含有させてもよい。一重項酸素クエンチャーの含有量としては、含有される層（例えば、正孔注入輸送層）を構成する全体量の0.01~50質量%、好ましくは、0.05~30質量%、より好ましくは、0.1~20質量%である。

10

#### 【0142】

正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層の形成方法に関しては、特に限定されるものではなく、例えば、真空蒸着法、イオン化蒸着法、溶液塗布法（例えば、スピコート法、キャスト法、ディップコート法、バーコート法、ロールコート法、ラングミュア・プロジェット法、インクジェット法）を使用することができる。

#### 【0143】

真空蒸着法により正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層を形成する場合、真空蒸着の条件は特に限定されるものではないが、通常、 $10^{-5}$  Torr程度以下の真空下で、50~500程度のポート温度（蒸着源温度）、-50~300程度の基板温度で、0.005~50nm/sec程度の蒸着速度で実施することが好ましい。この場合、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層は、真空下で、連続して形成することが好ましい。連続で形成することにより諸特性に優れた有機電界発光素子を製造することが可能となる。真空蒸着法により、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層を、複数の化合物を使用して形成する場合、化合物を入れた各ポートを個別に温度制御して、共蒸着することが好ましい。

20

#### 【0144】

溶液塗布法により各層を形成する場合、各層を形成する成分あるいはその成分とバインダー樹脂等とを、溶媒に溶解または分散させて塗布液とする。溶媒としては、例えば、有機溶媒（ヘキサン、オクタン、デカン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、1-メチルナフタレン等の炭化水素系溶媒、アセトン、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサノン等のケトン系溶媒、ジクロロメタン、クロロホルム、テトラクロロメタン、ジクロロエタン、トリクロロエタン、テトラクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼン、クロロトルエン等のハロゲン化炭化水素系溶媒、酢酸エチル、酢酸ブチル、酢酸アミル、乳酸エチル等のエステル系溶媒、メタノール、プロパノール、ブタノール、ペンタノール、ヘキサノール、シクロヘキサノール、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ、エチレングリコール等のアルコール系溶媒、ジブチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、アニソール等のエーテル系溶媒、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、1-メチル-2-ピロリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、ジメチルスルホキシド等の極性溶媒）、水を挙げることができる。溶媒は単独で使用してもよく、また複数併用してもよい。正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層の各層の成分を溶媒に分散させる場合には、分散方法として、例えば、ボールミル、サンドミル、ペイントシェーカー、アトライター、ホモジナイザー等を使用して微粒子状に分散する方法を使用することができる。

30

40

#### 【0145】

また、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層に使用しうるバインダー樹脂としては、ポリ-N-ビニルカルバゾール、ポリアリーレート、ポリスチレン、ポリエス

50

テル、ポリシロキサン、ポリメチルメタクリレート、ポリメチルアクリレート、ポリエーテル、ポリカーボネート、ポリアミド、ポリイミド、ポリアミドイミド、ポリパラキシレン、ポリエチレン、ポリフェニレンオキサイド、ポリエーテルスルホン、ポリアニリンおよびその誘導体、ポリチオフエンおよびその誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリフルオレンおよびその誘導体、ポリチエニレンビニレンおよびその誘導体などの高分子化合物を挙げることができる。バインダー樹脂は単独で使用してもよく、また、複数併用してもよい。塗布液の濃度は、特に限定されるものではないが、実施する塗布法により所望の厚みを作製するに適した濃度範囲に設定することができ、通常、0.1~50質量%、好ましくは、1~30質量%に設定する。バインダー樹脂を使用する場合、その使用量は特に限定されるものではないが、通常、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層を形成する成分とバインダー樹脂の総量に対してバインダー樹脂の含有率が（一層型の素子を形成する場合には各成分の総量に対して）、5~99.9質量%、好ましくは、10~99質量%となるように使用する。

#### 【0146】

正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層の膜厚は、特に限定されるものではないが、通常、5nm~5μmとする。

#### 【0147】

また、上記の条件で作製した本発明の有機電界発光素子は、酸素や水分等との接触を防止する目的で、保護層（封止層）を設けたり、また、素子を不活性物質中（例えば、パラフィン、流動パラフィン、シリコンオイル、フルオロカーボン油、ゼオライト含有フルオロカーボン油）に封入して保護することができる。保護層に使用する材料としては、例えば、有機高分子材料（例えば、フッ素樹脂、エポキシ樹脂、シリコーン樹脂、エポキシシリコーン樹脂、ポリスチレン、ポリアステル、ポリカーボネート、ポリアミド、ポリイミド、ポリアミドイミド、ポリパラキシレン、ポリエチレン、ポリフェニレンオキサイド）、無機材料（例えば、ダイヤモンド薄膜、アモルファスシリカ、電気絶縁性ガラス、金属酸化物、金属窒化物、金属炭化物、金属硫化物）、さらには、光硬化性樹脂を挙げることができる。保護層に使用する材料は単独で使用してもよく、また複数併用してもよい。保護層は一層構造であってもよく、また多層構造であってもよい。

#### 【0148】

また、本発明の有機電界発光素子は、電極に保護膜として金属酸化物膜（例えば、酸化アルミニウム膜）、金属フッ化膜を設けることもできる。

本発明の有機電界発光素子は、陽極の表面に界面層（中間層）を設けることもできる。界面層の材質としては、有機リン化合物、ポリシラン、芳香族アミン誘導体、フタロシアン誘導体等を挙げることができる。さらに、電極、例えば、陽極はその表面を、酸、アンモニア/過酸化水素、あるいはプラズマで処理して使用することもできる。

#### 【0149】

本発明の有機電界発光素子は、通常、直流駆動型の素子として使用することができるが、交流駆動型の素子としても使用することができる。また、本発明の有機電界発光素子は、セグメント型、単純マトリック駆動型等のパッシブ駆動型であってもよく、TFT（薄膜トランジスタ）型、MIM（メタル-インスレーター-メタル）型等のアクティブ駆動型であってもよい。駆動電圧は通常、2~30Vである。本発明の有機電界発光素子は、パネル型光源（例えば、時計、液晶パネル等のバックライト）、各種の発光素子（例えば、LED等の発光素子の代替）、各種の表示素子〔例えば、情報表示素子（パソコンモニター、携帯電話・携帯端末用表示素子）〕、各種の標識、各種のセンサーなどに使用することができる。

#### 【0150】

以下、実施例を挙げて本発明をさらに詳細に説明するが、本発明は、以下の実施例に限定されるものではない。

#### 【実施例1】

#### 【0151】

10

20

30

40

50

## 例示化合物 1 の製造

ピレン - 1 - ボロン酸 7.38 g (30 mmol)、10 - ブロモ - 9 - フェニルアントラセン 6.66 g (20 mmol)、炭酸ナトリウム 9.54 g、トルエン 200 ml、メタノール 100 ml および水 100 ml よりなる混合物に窒素気流下、テトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム 360 mg を添加し、110 に加熱し、同温度で 30 時間加熱攪拌した。反応混合物を室温に冷却し、トルエン相を分液した。さらに水洗し、トルエン相からトルエンを減圧下に留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、さらにトルエンから 2 回再結晶し、目的とする例示化合物 1 の化合物を無色の結晶として 3.4 g 得た。さらにこの化合物を 350、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

10

フィールド脱着マススペクトル (FD-MS)  $m/z = 454$

## 【実施例 2】

## 【0152】

## 例示化合物 27 の製造

実施例 1 において、10 - ブロモ - 9 - フェニルアントラセン 6.66 g (20 mmol) を使用する代わりに、10 - ブロモ - 9 - (9' - フェナントリル) アントラセン 8.67 g (20 mmol) を使用した以外は、実施例 1 に記載の操作に従い、例示化合物 27 の化合物を無色の結晶として 3.9 g 得た。さらにこの化合物を 400、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

20

FD-MS  $m/z = 554$

## 【実施例 3】

## 【0153】

## 例示化合物 57 の製造

実施例 1 において、ピレン - 1 - ボロン酸 7.38 g (30 mmol) および 10 - ブロモ - 9 - フェニルアントラセン 6.66 g (20 mmol) を使用する代わりに、8 - フェニルピレン - 1 - ボロン酸 9.66 g (30 mmol) および 9 - ブロモアントラセン 5.14 g (20 mmol) を使用した以外は、実施例 1 に記載の操作に従い、例示化合物 56 の化合物を無色の結晶として 3.5 g 得た。さらにこの化合物を 340、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

30

FD-MS  $m/z = 454$

## 【実施例 4】

## 【0154】

## 例示化合物 64 の製造

実施例 1 において、ピレン - 1 - ボロン酸 7.38 g (30 mmol) を使用する代わりに、8 - フェニルピレン - 1 - ボロン酸 9.66 g (30 mmol) を使用した以外は、実施例 1 に記載の操作に従い、例示化合物 64 の化合物を無色の結晶として 3.3 g 得た。さらにこの化合物を 410、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

FD-MS  $m/z = 530$

## 【実施例 5】

## 【0155】

## 例示化合物 102 の製造

実施例 1 において、ピレン - 1 - ボロン酸 4.92 g (20 mmol) および 10 - ブロモ - 9 - フェニルアントラセン 6.66 g (20 mmol) を使用する代わりに、8 - フェニルピレン - 1 - ボロン酸 9.66 g (30 mmol) および 10 - ブロモ - 9 - (9' - フェナントリル) アントラセン 8.67 g (20 mmol) を使用した以外は、実施例 1 に記載の操作に従い、例示化合物 102 の化合物を無色の結晶として 3.3 g 得た。さらにこの化合物を 420、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

FD-MS  $m/z = 630$

## 【実施例 6】

## 【0156】

50

## 例示化合物 1 2 1 の製造

0 に冷却した 1 - ブロモ - 8 - フェニルピレン 10.72 g (30 mmol)、テトラヒドロフラン 200 ml よりなる混合物に窒素気流下、n - ブチルリチウムのヘキサン溶液 (1.6 M) 21 ml (34 mmol) を滴下し、同温度で 15 分攪拌した。さらにアントラキノン 2.08 g (10 mmol)、テトラヒドロフラン 160 ml よりなる混合物を 0 で滴下し、室温に戻して 68 時間攪拌した。反応混合物に酢酸 5 ml を加えて 15 分攪拌した後、テトラヒドロフランと酢酸を減圧下に留去した。酢酸 300 ml、50% 次亜リン酸水溶液 20 ml、58% ヨウ化水素酸 2.5 ml を加え、80 に加熱し、同温度で 3 時間加熱攪拌した。反応混合物を室温に冷却し、減圧下にろ過した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、さらにトルエンから 2 回再結晶し、目的とする例示化合物 1 2 1 の化合物を淡黄色の結晶として 4.4 g 得た。さらにこの化合物を 420、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

10

FD - MS m / z = 730

## 【実施例 7】

## 【0157】

## 例示化合物 1 2 5 の製造

実施例 6 において、1 - ブロモ - 8 - フェニルピレン 10.72 g (30 mmol) を使用する代わりに、1 - ブロモピレン 8.43 g (30 mmol) を使用した以外は、実施例 6 に記載の操作に従い、例示化合物 1 2 5 の化合物を淡黄色の結晶として 3.5 g 得た。さらにこの化合物を 400、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

20

FD - MS m / z = 578

## 【実施例 8】

## 【0158】

## 例示化合物 1 2 8 の製造

実施例 6 において、1 - ブロモ - 8 - フェニルピレン 10.72 g (30 mmol) およびアントラキノン 2.08 g (10 mmol) を使用する代わりに、1 - ブロモピレン 8.43 g (30 mmol) および 2 - tert - ブチルアントラキノン 2.64 g (10 mmol) を使用した以外は、実施例 6 に記載の操作に従い、例示化合物 1 2 8 の化合物を淡黄色の結晶として 4.6 g 得た。さらにこの化合物を 420、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

30

FD - MS m / z = 634

## 【実施例 9】

## 【0159】

## 例示化合物 1 4 5 の製造

実施例 6 において、アントラキノン 2.08 g (10 mmol) を使用する代わりに、2 - tert - ブチルアントラキノン 2.64 g (10 mmol) を使用した以外は、実施例 6 に記載の操作に従い、例示化合物 1 4 5 の化合物を淡黄色の結晶として 4.3 g 得た。さらにこの化合物を 430、 $2 \times 10^{-4}$  Pa で昇華精製した。

FD - MS m / z = 786

## 【実施例 10】

## 【0160】

## 有機電界発光素子の作製

厚さ 200 nm の ITO 透明電極 (陽極) を有するガラス基板を、中性洗剤、セミコクリン (フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらに UV / オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着槽を  $3 \times 10^{-6}$  Torr に減圧した。まず、ITO 透明電極上に、4,4' - ビス [N - フェニル - N - (1 - ナフチル) アミノ] ビフェニルを蒸着速度 0.2 nm / sec で 75 nm の厚さに蒸着し、正孔注入輸送層を形成した。次に、正孔注入輸送層の上に発光層として、例示化合物 1 の化合物および 4,4' - ビス [2 - (4 - N, N - ジフェニルアミノフェニル) ビニル] ビフェニルをそれぞれ蒸着速度 2.0 nm / sec

40

c、 $0.02 \sim 0.1 \text{ nm/sec}$ で $40 \text{ nm}$ の厚さに蒸着し発光層を形成した、さらに、発光層の上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度 $0.2 \text{ nm/sec}$ で $15 \text{ nm}$ の厚さに蒸着し、電子注入輸送層を形成した。さらに、その上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度 $0.2 \text{ nm/sec}$ で $200 \text{ nm}$ の厚さに共蒸着(重量比 $10:1$ )して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に直流電圧を印加し、室温、乾燥雰囲気下、 $10 \text{ mA/cm}^2$ の定電流密度で連続駆動させた。初期には、電圧値は $5.3 \text{ V}$ であり、輝度 $920 \text{ cd/m}^2$ の青色の発光が確認された。輝度の半減期は $2000$ 時間であった。

【実施例11】

10

【0161】

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、例示化合物57の化合物を使用した以外は、実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作成した。さらに実施例10と同様に該素子に直流電圧を印加し、該素子の特性を測定した。素子からは青色の発光が確認された。結果を第1表(表1)に示した。

【実施例12】

【0162】

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、例示化合物64の化合物を使用した以外は、実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作成した。さらに、実施例10と同様に該素子に直流電圧を印加し、該素子の特性を測定した。素子からは青色の発光が確認された。結果を第1表(表1)に示した。

20

【実施例13】

【0163】

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、例示化合物125の化合物を使用した以外は、実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作成した。さらに、実施例10と同様に該素子に直流電圧を印加し、該素子の特性を測定した。素子からは青色の発光が確認された。結果を第1表(表1)に示した。

【実施例14】

【0164】

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、例示化合物145の化合物を使用した以外は、実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作成した。さらに、実施例10と同様に該素子に直流電圧を印加し、該素子の特性を測定した。素子からは青色の発光が確認された。結果を第1表(表1)に示した。

30

【0165】

(比較例1)

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、4,4'-ビス(2'',2''-ジフェニルビニル)ビフェニルを使用した以外は実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作製した。素子からは青色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表(表1)に示した。

40

【0166】

(比較例2)

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに、9,10-ジフェニルアントラセンを使用した以外は実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作製した。素子からは青色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表(表1)に示した。

【0167】

(比較例3)

実施例10において、発光層の形成に際して、例示化合物1の化合物を使用する代わりに

50

、9,10-ビス(3',5'-ジフェニルフェニル)アントラセンを使用した以外は、実施例10に記載の操作に従い、有機電界発光素子を作成した。素子からは青緑色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表(表1)に示した。

【0168】

【表1】

第1表

有機電界発光素子	初期特性(25°C)		半減期(25°C) (hr)
	輝度 (cd/cm <sup>2</sup> )	電圧 (V)	
実施例11	910	5.5	2100
実施例12	930	5.4	2600
実施例13	970	5.5	2700
実施例14	980	5.5	2700
比較例1	450	7.1	350
比較例2	590	6.5	1200
比較例3	630	6.4	1500

10

20

【実施例15】

【0169】

有機電界発光素子の作製

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミコクリン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。

まず、ITO透明電極上に、ポリ(チオフェン-2,5-ジイル)を蒸着速度0.1nm/secで、20nmの厚さに蒸着し、第1正孔注入輸送層を形成した。次いで、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(1'-ナフチル)アミノ]-1,1'-ビフェニルを蒸着速度0.2nm/secで55nmの厚さに蒸着し、第2正孔注入輸送層を形成した。次に、正孔注入輸送層の上に4,4'-ビス(2'',2''-ジフェニルビニル)-1,1'-ビフェニルと例示化合物27の化合物をそれぞれ蒸着速度0.2nm/secと0.02nm/secで40nmの厚さに蒸着し、発光層を形成した、さらに、発光層の上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を形成した。さらに、その上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に直流電圧を印加し、乾燥雰囲気下、10mA/cm<sup>2</sup>の定電流密度で連続駆動させた。初期には、5.6V、輝度950cd/m<sup>2</sup>の緑色の発光が確認された。輝度の半減期は2400時間であった。

30

40

【実施例16】

【0170】

有機電界発光素子の作製

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミコクリン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4',4''-トリス[N-(3''-メチルフェニル)-N-フェニルアミノ]トリフェニルアミンを蒸着速度0.1nm/secで、50nmの厚さに蒸着し、第1正孔注入輸送層

50

を形成した。次いで、4, 4'-ビス〔N-フェニル-N-(1-ナフチル)アミノ〕、蒸着速度0.2 nm/secで20 nmの厚さに蒸着し、第2正孔注入輸送層を形成した。さらに、その上に例示化合物102で表される化合物を0.1 nm/secで40 nmの厚さに蒸着して発光層を形成した。次いで、その上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度0.2 nm/secで50 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を形成した。さらに、その上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度0.2 nm/secで200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に直流電圧を印加し、乾燥雰囲気下、10 mA/cm<sup>2</sup>の定電流密度で連続駆動させた。初期には、5.5 V、輝度930 cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。輝度の半減期は2300時間であった。

10

## 【実施例17】

## 【0171】

## 有機電界発光素子の作製

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミコクリン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、ポリ(チオフェン-2,5-ジイル)を蒸着速度0.1 nm/secで、20 nmの厚さに蒸着し、第1正孔注入輸送層を形成した。蒸着槽を大気圧下に戻した後、再び蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。次いで、例示化合物121の化合物とルブレンを、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2 nm/secで55 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)し、第2正孔注入輸送層を兼ね備えた発光層を形成した。減圧状態を保ったまま、次に、その上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度0.2 nm/secで50 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を形成した。減圧状態を保ったまま、さらに、その上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度0.2 nm/secで200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に直流電圧を印加し、乾燥雰囲気下、10 mA/cm<sup>2</sup>の定電流密度で連続駆動させた。初期には、5.5 V、輝度950 cd/m<sup>2</sup>の黄色の発光が確認された。輝度の半減期は2500時間であった。

20

## 【実施例18】

## 【0172】

## 有機電界発光素子の作製

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミコクリン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、例示化合物27を蒸着速度0.1 nm/secで、20 nmの厚さに蒸着し、第1正孔注入輸送層を形成した。蒸着槽を大気圧下に戻した後、再び蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。次いで、例示化合物125の化合物とルブレンを、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2 nm/secで55 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)し、第2正孔注入輸送層を兼ね備えた発光層を形成した。次に、その上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度0.2 nm/secで50 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を形成した。さらに、その上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度0.2 nm/secで200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に直流電圧印加し、乾燥雰囲気下、10 mA/cm<sup>2</sup>の定電流密度で連続駆動させた。初期には、5.6 V、輝度930 cd/m<sup>2</sup>の黄色の発光が確認された。輝度の半減期は2500時間であった。

30

40

## 【実施例19】

## 【0173】

50

## 有機電界発光素子の作製

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミクリーン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した。次に、ITO透明電極上に、ポリカーボネート(重量平均分子量39000)と例示化合物125の化合物を重量比100:50の割合で含有する3質量%ジクロロエタン溶液を用いてスピコート法により、40nmの正孔注入輸送層を形成した。次にこの正孔注入輸送層を有するガラス基板を、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着層を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。次に、その上にトリス(8-キノリノラート)アルミニウムを蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を兼ね備えた発光層を形成した。さらに、その上

10

## 【実施例20】

## 【0174】

## 有機電界発光素子の作製

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、セミクリーン(フルウチ化学製)、超純水、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。この

基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した。次に、ITO透明電極上に、ポリメチルメタクリレート(重量平均分子量25000)、例示化合物128の化合物と、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムをそれぞれ重量比100:50:0.5の割合で含有する3質量%ジクロロエタン溶液を用いてスピコート法により、100nmの発光層を形成した。次にこの発光層を有するガラス基板を、蒸着装置の基板ホルダーに固定し、蒸着層を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。発光層の上に、陰極としてマグネシウムと銀を蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に乾燥雰囲気下、10Vの直流電圧を印加したところ、20mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度860cd/m<sup>2</sup>の緑色の発光が確認された。輝度の半減期は550時間であった。

20

30

## 【産業上の利用可能性】

## 【0175】

本発明により、新規なアントラセン化合物、および該アントラセン化合物を使用した、発光寿命が長く、耐久性に優れた有機電界発光素子を提供することが可能になる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0176】

- 【図1】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図2】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図3】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図4】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図5】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図6】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図7】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。
- 【図8】有機電界発光素子の一例の断面概略図である。

40

## 【符号の説明】

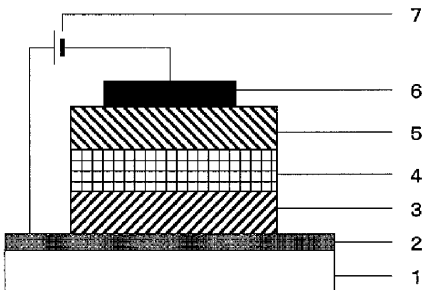
## 【0177】

- 1: 基板
- 2: 陽極
- 3: 正孔注入輸送層
- 3a: 正孔注入輸送成分

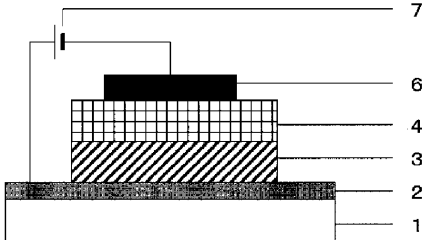
50

- 4 : 発光層
- 4 a : 発光成分
- 5 : 電子注入輸送層
- 5 " : 電子注入輸送層
- 5 a : 電子注入輸送成分
- 6 : 陰極
- 7 : 電源

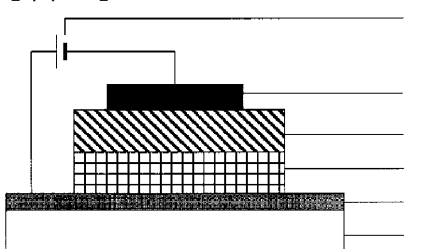
【 図 1 】



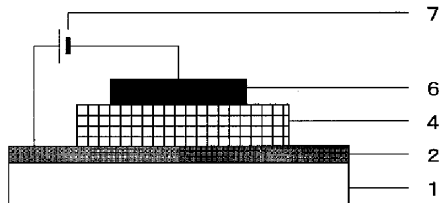
【 図 2 】



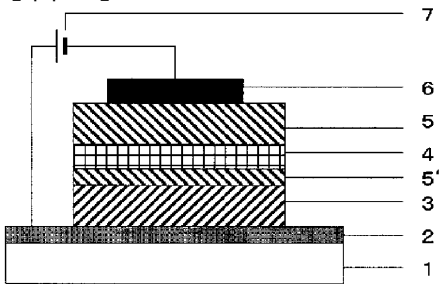
【 図 3 】



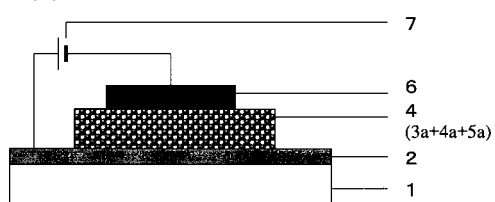
【 図 4 】



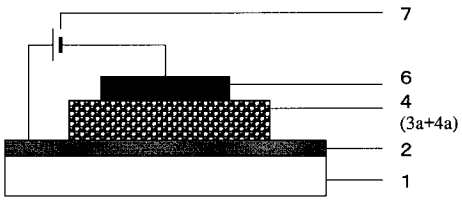
【 図 5 】



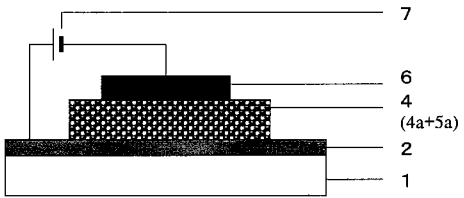
【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】



フロントページの続き

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

F I

テーマコード(参考)

H 0 5 B 33/22

D

(72)発明者 田辺 良満

千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内

(72)発明者 島村 武彦

千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内

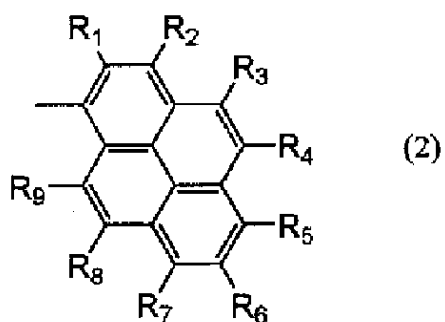
(72)発明者 戸谷 由之

千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内

Fターム(参考) 3K007 AB02 AB06 AB11 CB04 DB03

4H006 AA01 AA03 AB91

【要約の続き】



〔式(2)中、R<sub>1</sub> ~ R<sub>9</sub> は水素原子またはハロゲン原子等を表す〕

【選択図】なし

专利名称(译)	蒽化合物和含有蒽化合物的有机电致发光元件		
公开(公告)号	<a href="#">JP2005206551A</a>	公开(公告)日	2005-08-04
申请号	JP2004016538	申请日	2004-01-26
[标]申请(专利权)人(译)	三井化学株式会社		
申请(专利权)人(译)	三井化学株式会社		
[标]发明人	井上浩二 青木要治 加賀山陽史 玉谷弘明 田辺良満 島村武彦 戸谷由之		
发明人	井上 浩二 青木 要治 加賀山 陽史 玉谷 弘明 田辺 良満 島村 武彦 戸谷 由之		
IPC分类号	H01L51/50 C07C15/62 C09K11/06 H05B33/14 H05B33/22		
FI分类号	C07C15/62 C09K11/06.610 C09K11/06.620 C09K11/06.645 H05B33/14.B H05B33/22.D		
F-TERM分类号	3K007/AB02 3K007/AB06 3K007/AB11 3K007/CB04 3K007/DB03 4H006/AA01 4H006/AA03 4H006/AB91 3K107/AA01 3K107/CC02 3K107/CC21 3K107/DD59 3K107/DD71 3K107/DD78		
其他公开文献	JP4846982B2		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

摘要(译)

要解决的问题：提供适合用作有机电致发光器件的发光材料的新型蒽化合物。 溶液：由式(1)表示的蒽化合物。 嵌入图片 在式(1)中，Y1至Y10独立地表示氢原子或卤素原子并且Y1 Y10的相邻组可以与相邻组形成环，并且在Y1到Y10之间其中至少一个是由式(2)表示的基团] 嵌入图片 [式(2)中，R1至R9表示氢原子，卤素原子等] 【选择图】无

